

次期豊川市環境基本計画策定に向けた アンケート調査

報告書（市 HP 公表版）

2019 年 2 月

豊川市環境部環境課

次期豊川市環境基本計画策定に向けたアンケート調査 報告書（市 HP 公表版）

－ 目 次 －

調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 調査期間	1
5 回収結果	1
6 報告書の見方	1
 調査結果【市民向け】	 2
1 環境問題に対する意識や関心について	2
2 豊川市の環境に対する満足度について	6
3 環境保全の取組について	8
4 本市の環境基本計画に関する取組について	13
5 地球温暖化対策について	16
6 あなたのことについて	20
 調査結果【事業所向け】	 24
1 環境問題に対する意識や関心について	24
2 環境保全の取組について	25
3 本市の環境基本計画に関する取組について	33
4 地球温暖化対策について	36
5 貴事業所のことについて	39

調査概要

1 調査目的

- 豊川市では、平成 22 年 3 月に「豊川市環境基本計画」（以下、「現行計画」という。）を策定し、将来像「環境行動都市 とよかわ ～次世代に誇れるまちをつくろう～」の実現に向けて、環境保全施策を総合的、計画的に実施してきた。現行計画の計画期間が平成 31 年度までであることから、平成 32 年度からの新たな「豊川市環境基本計画」（以下、「次期計画」という。）の策定に取り組んでいる。
- 「豊川市環境基本条例」第 9 条第 3 項において、基本計画の策定にあたっては、「市民及び事業者の意見が反映されるよう努める」とされていることから、アンケート調査を実施することとした。

2 調査対象

- 調査対象は、市内在住の 18 歳以上の市民 2,000 名及び市内に拠点を置く事業所（本所・支所や事業所規模を問わない）300 事業所とした。

3 調査方法

- 調査方法は、郵送配布、郵送回収とした。

4 調査期間

- 調査期間は、平成 30 年 11 月 21 日（水）から 12 月 5 日（水）までとした。

5 回収結果

- 回収結果は、以下のとおりである。

調査対象	配布数	回収数	回収率
市 民	2,000	887	44.4%
事業所	300	103	34.3%

6 報告書の見方

報告書の見方は、以下のとおりである。

- ①図表内の「N」は、設問に対する回答の合計数である。
- ②単数回答の設問は帯グラフ、複数回答の設問は棒グラフとする。
- ③集計は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示しているため、比率の合計が 100.0% とならない場合がある。
- ④複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- ⑤クロス集計表では性別や年齢について無回答の人を除いているため、回答者総数と数が合わないことがある。
- ⑥本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

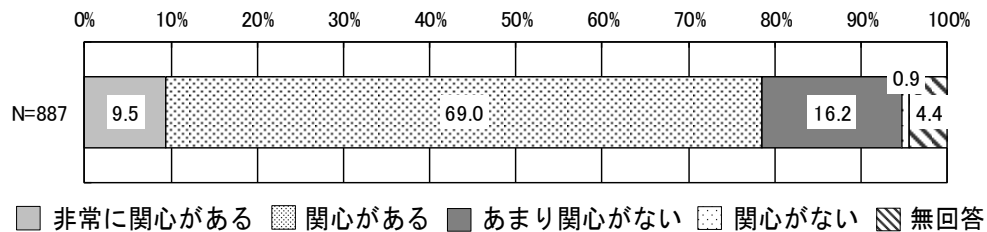
調査結果【市民向け】

1 環境問題に対する意識や関心について

問 1 あなたは、環境問題に対して関心がありますか。(〇は1つ)

○「非常に関心がある」「関心がある」を合わせて、関心があるという回答が 78.5%、「関心がない」「あまり関心がない」を合わせて、関心がないという回答が 17.1%であった。

○年代別にみると、年代が高いほど関心があるという回答割合が高くなっている。



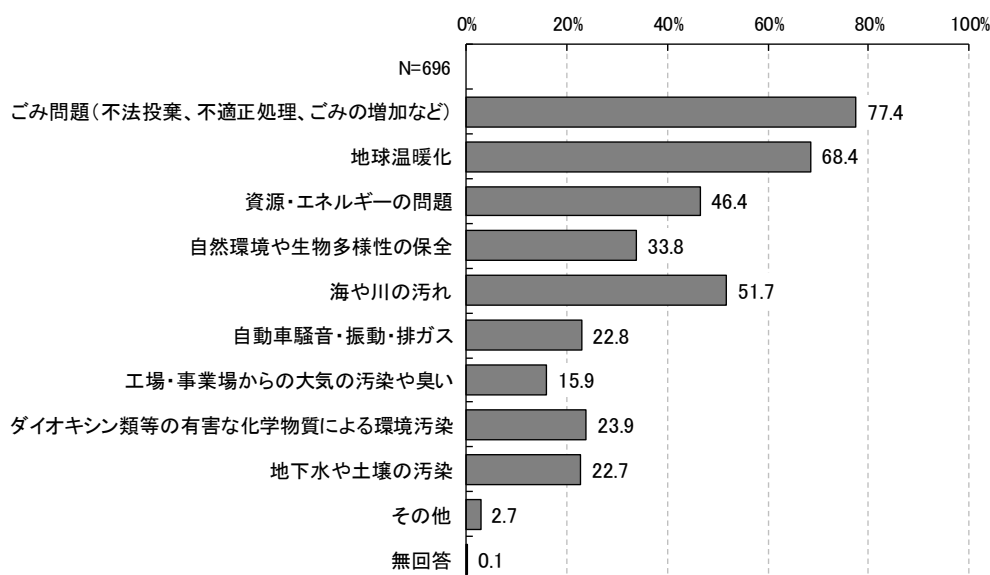
■ 「年代」によるクロス集計結果

	合計	非常に関心 がある	関心がある	あまり関心 がない	関心がない	無回答
全体	872	83	608	138	8	35
	100.0	9.5	69.7	15.8	0.9	4.0
10代 (18～19歳)	12	1	8	2	1	0
	100.0	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0
20代	55	1	34	19	1	0
	100.0	1.8	61.8	34.5	1.8	0.0
30代	106	7	70	23	3	3
	100.0	6.6	66.0	21.7	2.8	2.8
40代	151	10	110	26	1	4
	100.0	6.6	72.8	17.2	0.7	2.6
50代	140	14	104	17	0	5
	100.0	10.0	74.3	12.1	0.0	3.6
60代	146	20	103	20	1	2
	100.0	13.7	70.5	13.7	0.7	1.4
70代以上	262	30	179	31	1	21
	100.0	11.5	68.3	11.8	0.4	8.0

問2 問1で「非常に関心がある」、「関心がある」と答えた方にお聞きします。

現在、どのような環境問題に関心がありますか。(○はいくつでも)

○「ごみ問題（不法投棄、不適正処理、ごみの増加など）」が77.4%と最も高く、次いで「地球温暖化」が68.4%、「海や川の汚れ」が51.7%となっている。

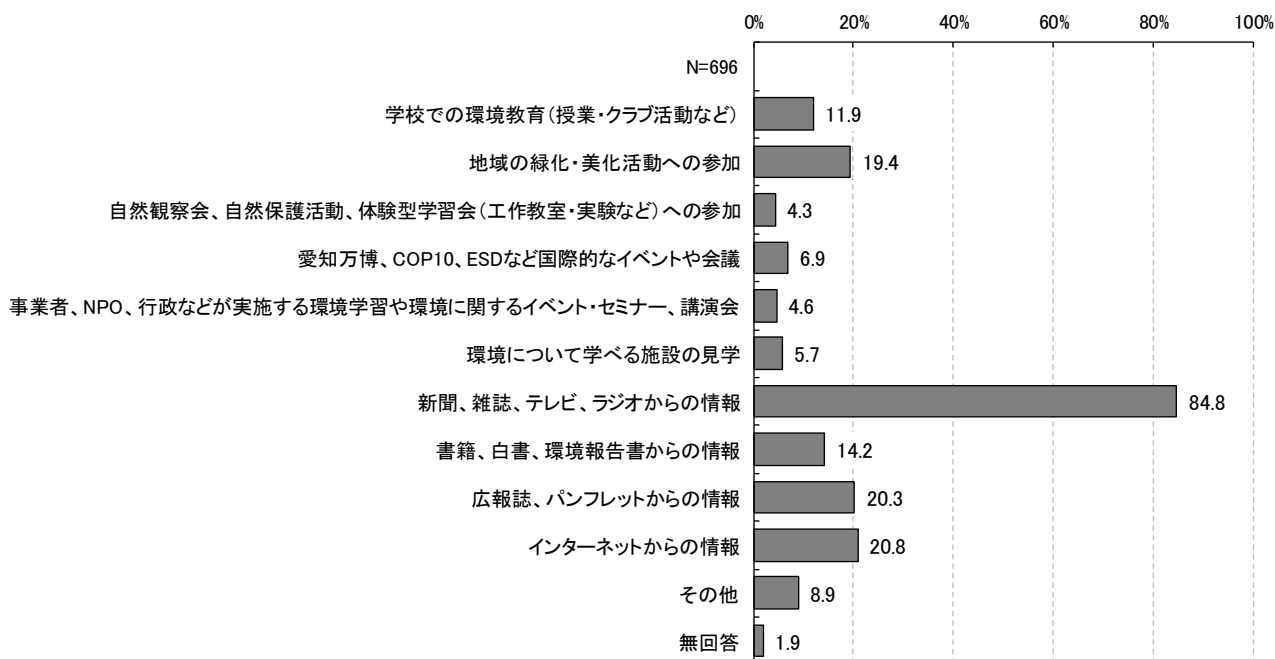


【その他自由意見】

主な意見	件数
鳥獣駆除、イノシシ、サル等による作物被害	4
雑草対策、ブタ草の増加、花粉症で困る	3
マイクロプラスチック	2
野良猫問題	2
福島原子力発電の爆発等、福島の汚染土の再利用	2
その他	8
合計	21

問3 問1で「非常に興味がある」、「興味がある」と答えた方にお聞きします。
問2で選択した環境問題に関心を持つようになったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

- 「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」が84.8%と最も高く、次いで「インターネットからの情報」が20.8%、「広報紙、パンフレットからの情報」が20.3%となっている。
- 年代別にみると、10代は「学校での環境教育」、20代を含む若い世代では「インターネットからの情報」、高齢世代では「広報紙、パンフレットからの情報」の回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見】

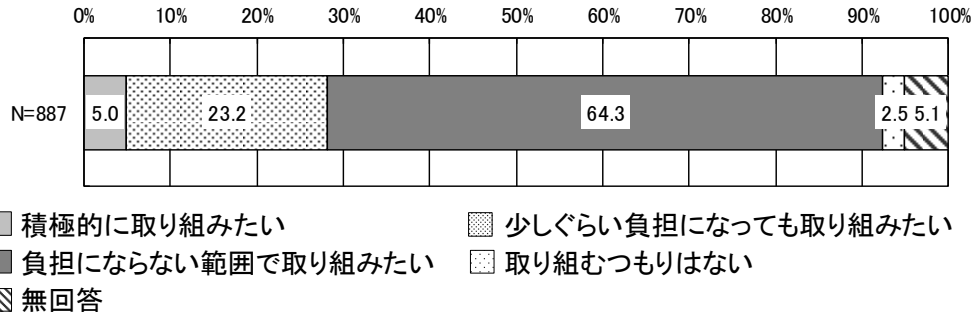
主な意見	件数
ゴミ捨ての状況・ゴミの量などを見て	12
日常生活から	11
環境汚染、騒音の状況から	6
学生時代の勉強、仕事の関係から	6
異常気象を体験して	4
アウトドア活動を通じて	4
幼少期からの環境の変化	3
子どもの誕生	3
イベント・セミナーから	3
その他	5
合計	57

■「年代」によるクロス集計結果

	合計	学校での 環境教育 (授業・ク ラブ活動な ど)	地域の緑 化・美化活 動への参 加	自然観察 会、自然 保護活 動、体験 型学習会 (工作教 室・実験 など)への参 加	愛知万 博、 COP10、 ESDなど国 際的なイ ベントや会 議	事業者、 NPO、行 政などが 実施する 環境学習 や環境に 関するイ ベント・セ ミナー、講演 会	環境につ いて学べ る施設の 見学	新聞、雑 誌、テレ ビ、ラジオ からの情 報	書籍、白 書、環境 報告書か らの情報	広報誌、 パンフレ ットから の情報	インター ネットか らの情報	その他	無回答
全体	691 100.0	83 12.0	134 19.4	30 4.3	48 6.9	32 4.6	40 5.8	585 84.7	99 14.3	140 20.3	145 21.0	62 9.0	13 1.9
10代 (18～19歳)	9 100.0	6 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4	1 11.1	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0
20代	35 100.0	10 28.6	2 5.7	0 0.0	0 0.0	1 2.9	2 5.7	28 80.0	5 14.3	2 5.7	14 40.0	5 14.3	0 0.0
30代	77 100.0	18 23.4	4 5.2	1 1.3	5 6.5	0 0.0	5 6.5	62 80.5	9 11.7	4 5.2	24 31.2	9 11.7	0 0.0
40代	120 100.0	16 13.3	13 10.8	4 3.3	8 6.7	9 7.5	4 3.3	104 86.7	14 11.7	7 5.8	38 31.7	5 4.2	4 3.3
50代	118 100.0	8 6.8	19 16.1	5 4.2	9 7.6	9 7.6	5 4.2	97 82.2	16 13.6	18 15.3	28 23.7	15 12.7	3 2.5
60代	123 100.0	7 5.7	35 28.5	12 9.8	8 6.5	4 3.3	7 5.7	105 85.4	20 16.3	35 28.5	23 18.7	13 10.6	1 0.8
70代以上	209 100.0	18 8.6	61 29.2	8 3.8	18 8.6	9 4.3	17 8.1	185 88.5	34 16.3	74 35.4	17 8.1	13 6.2	5 2.4

問4 環境問題に取り組む姿勢として、あなたの考えに近いものはどれですか。(○は1つ)

- 「負担にならない範囲で取り組みたい」が64.3%で最も高く、次いで「少しぐらい負担になっても取り組みたい」が23.2%、「積極的に取り組みたい」が5.0%となっている。
- 環境問題への関心の程度別にみると、関心が高いほどより積極的に取り組む意向が高くなっている。



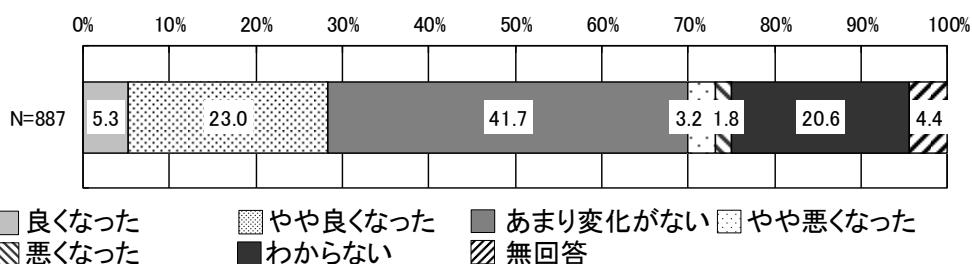
■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

	合計	積極的に取り組みたい	少しぐらい負担になっても取り組みたい	負担にならない範囲で取り組みたい	取り組むつもりはない	無回答
全体	848	40	200	551	19	38
	100.0	4.7	23.6	65.0	2.2	4.5
非常に関心がある	84	21	25	35	0	3
	100.0	25.0	29.8	41.7	0.0	3.6
関心がある	612	19	162	396	7	28
	100.0	3.1	26.5	64.7	1.1	4.6
あまり関心がない	144	0	12	118	8	6
	100.0	0.0	8.3	81.9	5.6	4.2
関心がない	8	0	1	2	4	1
	100.0	0.0	12.5	25.0	50.0	12.5

2 豊川市の環境に対する満足度について

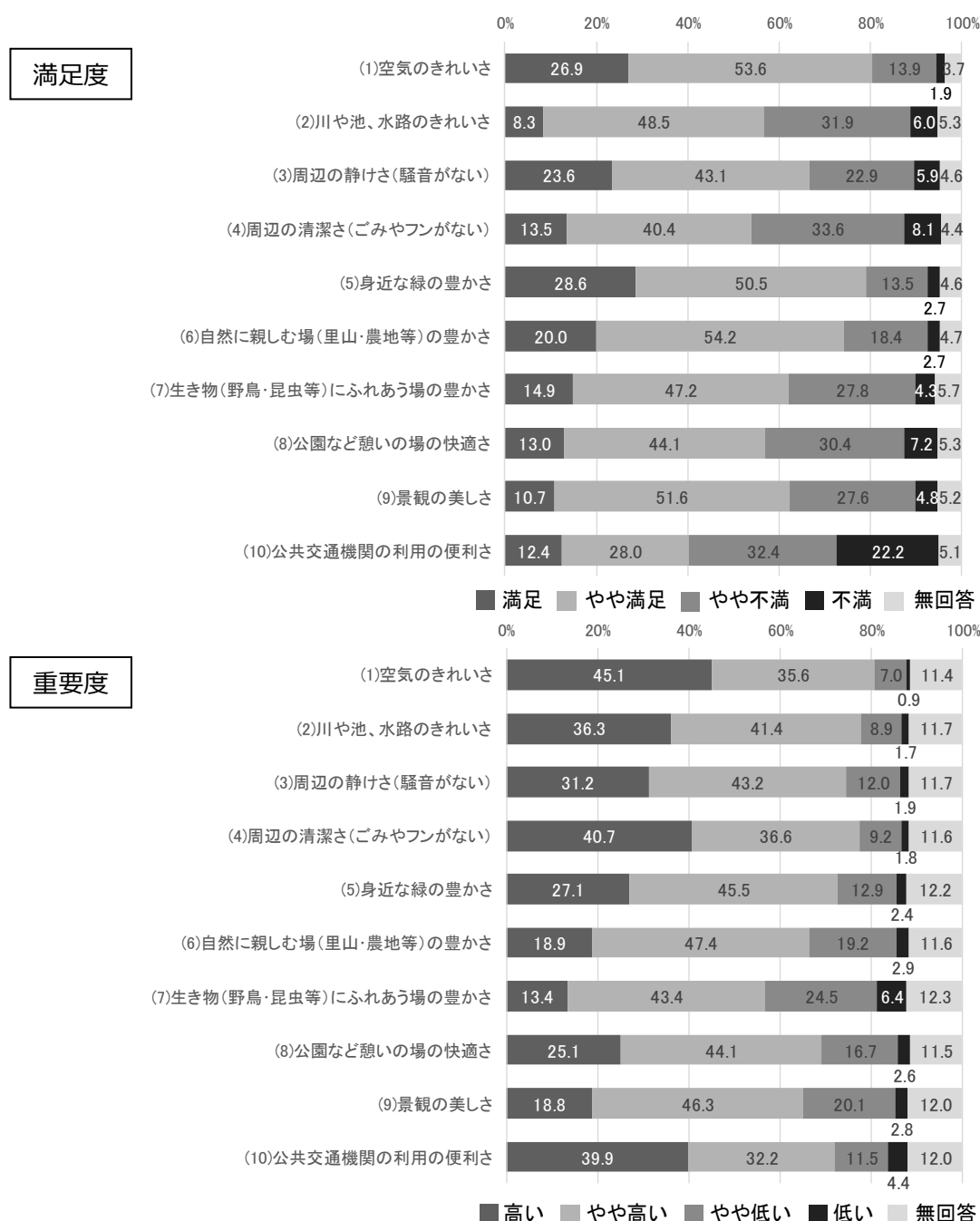
問5 あなたは、豊川市の環境が以前と比べてどのように変化してきていると思いますか。(○は1つ)

- 「良くなった」「やや良くなった」を合わせて、良くなったという回答が28.3%、「悪くなった」「やや悪くなった」を合わせて、悪くなったという回答が5.0%、「あまり変化がない」が41.7%、「わからない」が20.6%となっている。



問 6 以下の環境の快適さを表す各項目について、あなたのご近所や町内の範囲を思い浮かべ、現在の「満足度」と今後の「重要度」として、あなたの今のお気持ちに最も近い番号に○印をつけてください。
(○はそれぞれ1つ)

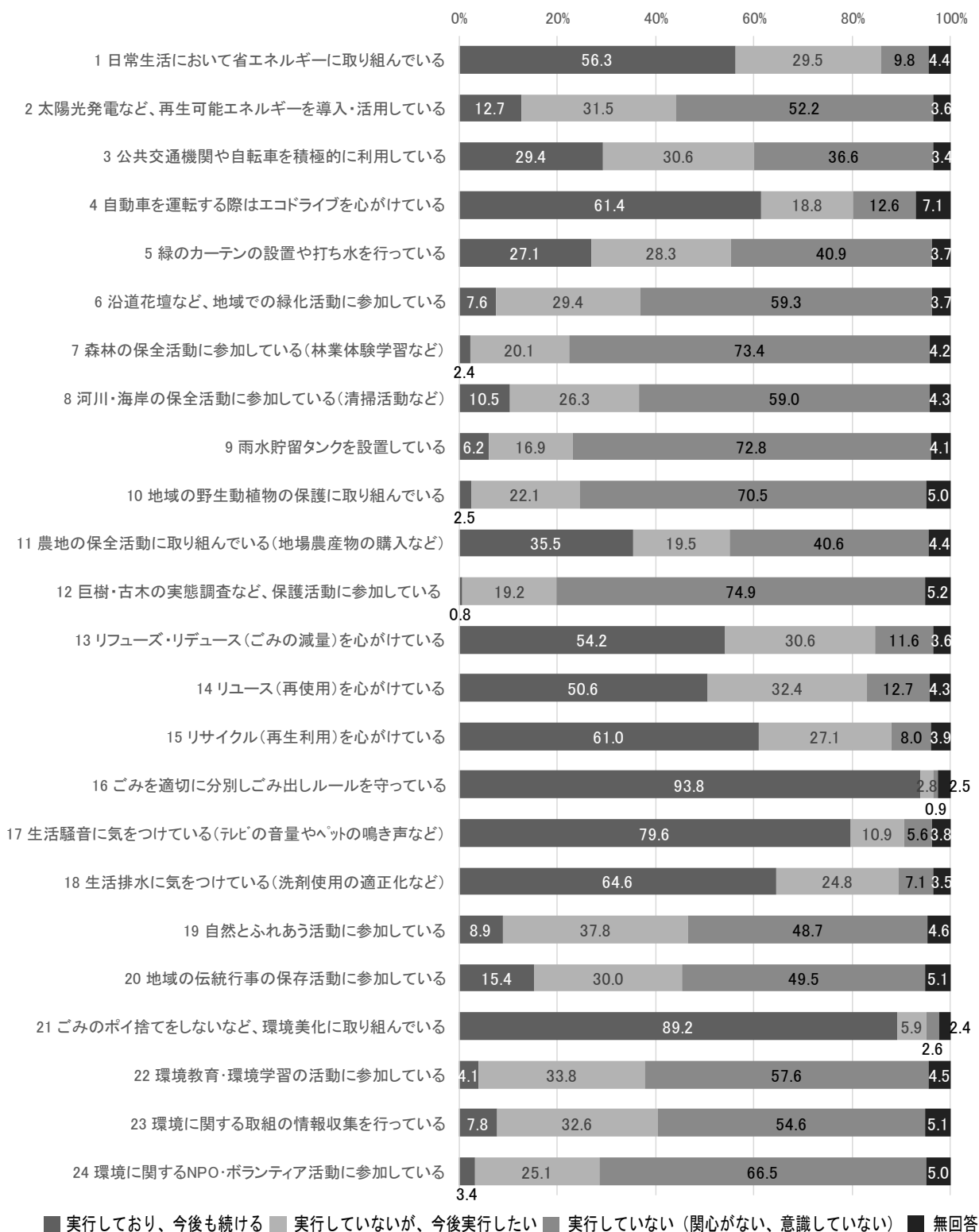
- 「満足」「やや満足」を合わせて、満足度の高い項目としては、「空気のきれいさ」が 80.5%、「身近な緑の豊かさ」が 79.1%、「自然に親しむ場（里山・農地等）の豊かさ」が 74.2%となっている。
- 「不満」「やや不満」を合わせて、満足度の低い項目としては、「公共交通機関の利用の便利さ」が 54.6%、「周辺の清潔さ（ごみやフンがない）」が 41.7%、「川や池、水路のきれいさ」が 37.9%となっている。
- 「高い」「やや高い」を合わせて、重要度の高い項目としては、「空気のきれいさ」が 80.7%、「川や池、水路のきれいさ」が 77.7%、「周辺の清潔さ（ごみやフンがない）」が 77.3%となっている。
- 「低い」「やや低い」を合わせて、重要度の低い項目としては、「生き物（野鳥・昆虫等）にふれあう場の豊かさ」が 30.9%、「景観の美しさ」が 22.9%、「自然に親しむ場（里山・農地等）の豊かさ」が 22.1%となっている。



3 環境保全の取組について

問7 あなたは、次のような環境保全の取組を実行していますか。各項目について、該当する番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

- 「実行しており、今後も続ける」の回答が高い項目としては、「ごみを適切に分別しごみ出しルールを守っている」が93.8%と最も高く、次いで「ごみのポイ捨てをしないなど、環境美化に取り組んでいる」が89.2%、「生活騒音に気をつけている（テレビの音量やペットの鳴き声など）」が79.6%となっている。
- 「実行していないが、今後実行したい」の回答が高い項目としては、「自然とふれあう活動に参加している」が37.8%と最も高く、次いで「環境教育・環境学習の活動に参加している」が33.8%、「環境に関する取組の情報収集を行っている」が32.6%となっている。
- 「実行していない（関心がない、意識していない）」の回答が高い項目としては、「巨樹・古木の実態調査など、保護活動に参加している」が74.9%と最も高く、次いで「森林の保全活動に参加している（林業体験学習など）」が73.4%、「雨水貯留タンクを設置している」が72.8%となっている。

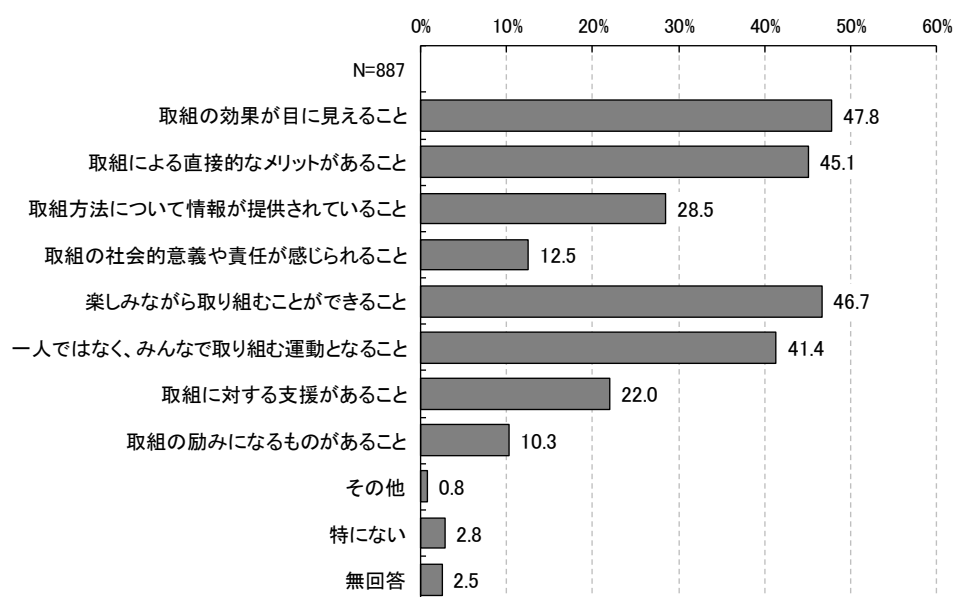


問 8 あなた自身が環境保全の取組をより積極的に実行していくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

○「取組の効果が目に見えること」が 47.8%と最も高く、次いで「楽しみながら取り組むことができること」が 46.7%、「取組による直接的なメリットがあること」が 45.1%となっている。

○年代別にみると、10代及び高齢世代では「一人ではなく、みんなで取り組む運動になること」の回答割合が比較的高くなっている。また、20代～50代において「取組による直接的なメリットがあること」の回答割合が比較的高くなっている。

○環境問題への関心の程度別にみると、関心の程度に関わらず、「取組の効果が目に見えること」「楽しみながら取り組むことができること」の回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見（7件 ※少数のため全件掲載）】

- ・簡単であること。補助金申請などは難しすぎて出来ない。自分でやらないとやった気がしない
- ・自分が自覚して、自主的にやって行くことが大切である
- ・取り組む時間がなかなかない（仕事がある）。日々出来ることをもっと知りたい
- ・時間をつくること。今は仕事が忙しくて取り組む時間がない。働き方改革
- ・条例にして、守れていなければ罰則・罰金を取ることで
- ・エコ洗剤の活用の促進、補助など
- ・取り組みに参加しない人々を「ダメ」と定義しないこと

■「年代」によるクロス集計結果

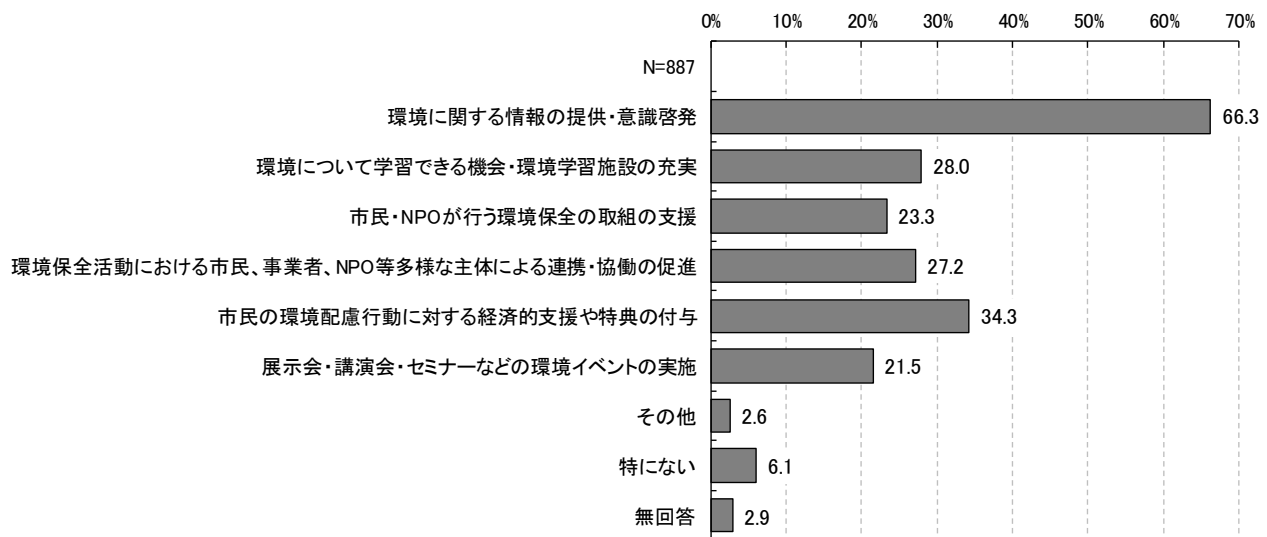
	合計	取組の効果が目に見えること	取組による直接的なメリットがあること	取組方法について情報が提供されていること	取組の社会的意義や責任が感じられること	楽しみながら取り組むことができること	一人ではなく、みんなで取り組む運動となること	取組に対する支援があること	取組の励みになるものがあること	その他	特にない	無回答
全体	872	419	395	251	109	411	364	195	88	7	24	15
	100.0	48.1	45.3	28.8	12.5	47.1	41.7	22.4	10.1	0.8	2.8	1.7
10代 (18～19歳)	12	6	5	2	1	4	7	4	2	0	1	0
	100.0	50.0	41.7	16.7	8.3	33.3	58.3	33.3	16.7	0.0	8.3	0.0
20代	55	37	34	13	5	13	13	18	7	1	1	0
	100.0	67.3	61.8	23.6	9.1	23.6	23.6	32.7	12.7	1.8	1.8	0.0
30代	106	58	70	21	7	49	29	28	17	1	2	1
	100.0	54.7	66.0	19.8	6.6	46.2	27.4	26.4	16.0	0.9	1.9	0.9
40代	151	73	85	42	16	80	49	40	22	2	1	1
	100.0	48.3	56.3	27.8	10.6	53.0	32.5	26.5	14.6	1.3	0.7	0.7
50代	140	70	70	42	20	63	52	39	11	1	3	2
	100.0	50.0	50.0	30.0	14.3	45.0	37.1	27.9	7.9	0.7	2.1	1.4
60代	146	66	51	50	21	74	70	26	14	1	4	2
	100.0	45.2	34.9	34.2	14.4	50.7	47.9	17.8	9.6	0.7	2.7	1.4
70代以上	262	109	80	81	39	128	144	40	15	1	12	9
	100.0	41.6	30.5	30.9	14.9	48.9	55.0	15.3	5.7	0.4	4.6	3.4

■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

	合計	取組の効果が目に見えること	取組による直接的なメリットがあること	取組方法について情報が提供されていること	取組の社会的意義や責任が感じられること	楽しみながら取り組むことができること	一人ではなく、みんなで取り組む運動となること	取組に対する支援があること	取組の励みになるものがあること	その他	特にない	無回答
全体	848	413	385	241	102	394	350	191	89	7	21	18
	100.0	48.7	45.4	28.4	12.0	46.5	41.3	22.5	10.5	0.8	2.5	2.1
非常に関心がある	84	46	23	26	15	40	38	16	11	2	1	2
	100.0	54.8	27.4	31.0	17.9	47.6	45.2	19.0	13.1	2.4	1.2	2.4
関心がある	612	303	293	183	74	299	256	145	59	4	7	11
	100.0	49.5	47.9	29.9	12.1	48.9	41.8	23.7	9.6	0.7	1.1	1.8
あまり関心がない	144	62	67	30	13	53	55	29	19	1	10	4
	100.0	43.1	46.5	20.8	9.0	36.8	38.2	20.1	13.2	0.7	6.9	2.8
関心がない	8	2	2	2	0	2	1	1	0	0	3	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	37.5	12.5

問 9 環境保全の取組が市民の皆さんに広がるために、本市はどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。（○は3つまで）

○「環境に関する情報の提供・意識啓発」が 66.3%と最も高く、次いで「市民の環境配慮行動に対する経済的支援や特典の付与」が 34.3%、「環境について学習できる機会・環境学習施設の充実」が 28.0%となっている。



【その他自由意見】

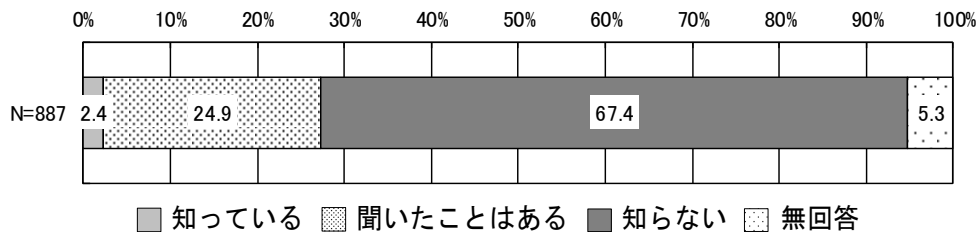
主な意見	件数
学校教育での取組	4
広報活動	4
町内会での取組	2
規制、条例の制定など	2
その他	10
合計	22

4 本市の環境基本計画に関する取組について

問 10 あなたは、「豊川市環境基本計画」を知っていますか。(○は1つ)

○「知っている」が 2.4%、「聞いたことはある」が 24.9%、「知らない」が 67.4%となっている。

○環境問題への関心別にみると、関心の程度に関わらず、「知らない」という回答割合が高くなっている。

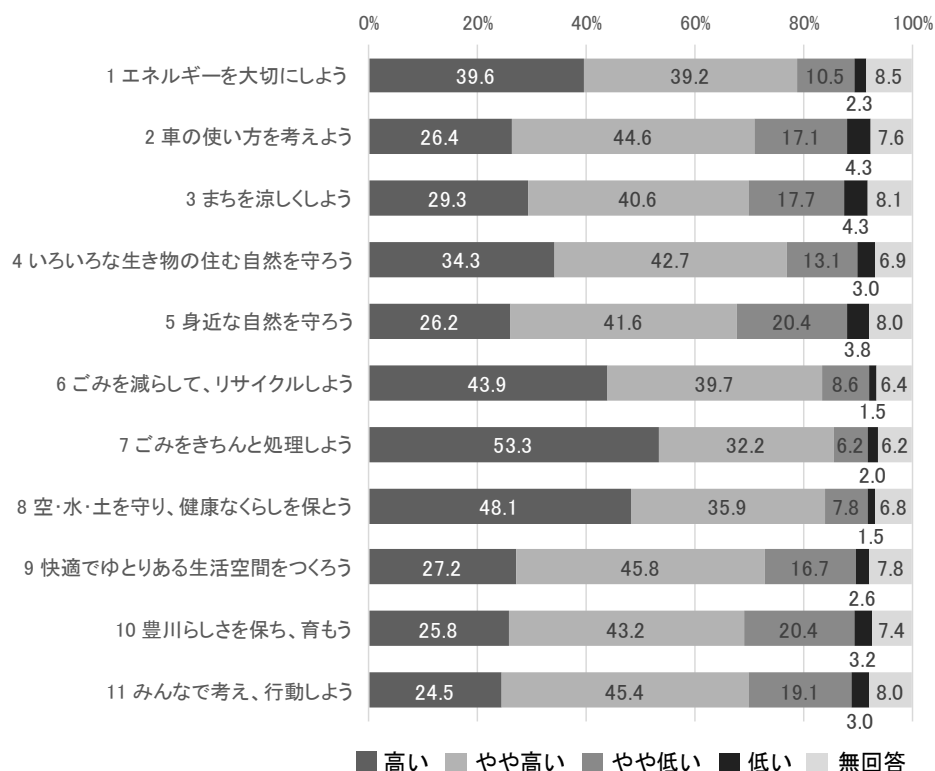


■ 「環境問題への関心」によるクロス集計結果

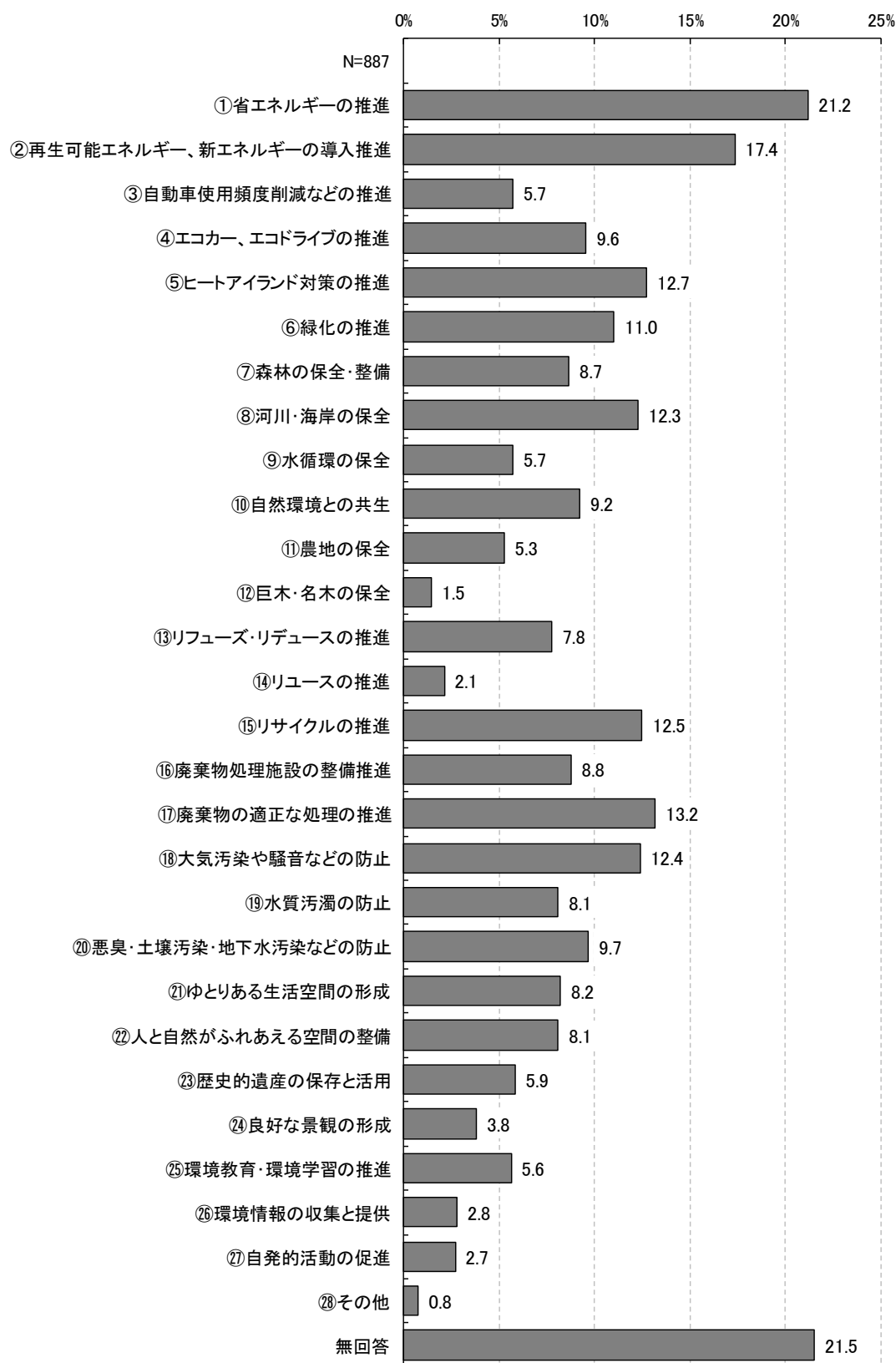
	合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体	848	20	208	579	41
	100.0	2.4	24.5	68.3	4.8
非常に関心がある	84	8	30	41	5
	100.0	9.5	35.7	48.8	6.0
関心がある	612	12	163	407	30
	100.0	2.0	26.6	66.5	4.9
あまり関心がない	144	0	15	123	6
	100.0	0.0	10.4	85.4	4.2
関心がない	8	0	0	8	0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 11 本市の環境基本計画に関する環境目標について、今後の重要度をどのように考えますか。表右側の重要度について、該当する番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ1つ）また、より良い環境を将来の世代に引き継ぐため、今後、特に重点的に取り組むべき取組を3つ選び、番号を記入してください。

○「高い」「やや高い」を合わせて、重要度が高い項目としては、「ごみをきちんと処理しよう」が85.5%と最も高く、次いで「空・水・土を守り、健康な暮らしを保とう」が84.0%、「ごみを減らして、リサイクルしよう」が83.6%となっている。



○今後、特に重点的に取り組むべき取組としては、「省エネルギーの推進」が 21.2%と最も高く、「再生可能エネルギー、新エネルギーの導入推進」が 17.4%、「廃棄物の適正な処理の推進」が 13.2%となっている。



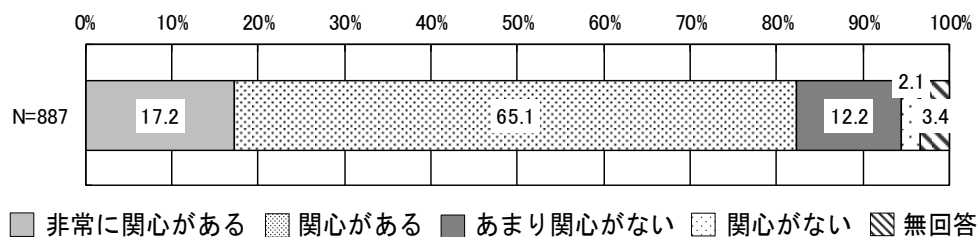
【その他自由意見（4 件 ※少数のため全件掲載）】

- ・各駅周辺の整備（豊川駅を除く）。主要道路の美化。市外の方が「住みたい街」の第 1 歩に…
- ・紙を使用したアンケートの中止。2,000 人分のアンケート用紙は資源の無駄使い、かつ、ごみの増加につながる
- ・家庭ごみの適正な処理がされてない。農業用ビニール等がどこからか飛んで来て、放置されている
- ・教育。幼稚園児、小学生、中学生、高校生への現実救済の拡充。特に体感型学習の拡充

5 地球温暖化対策について

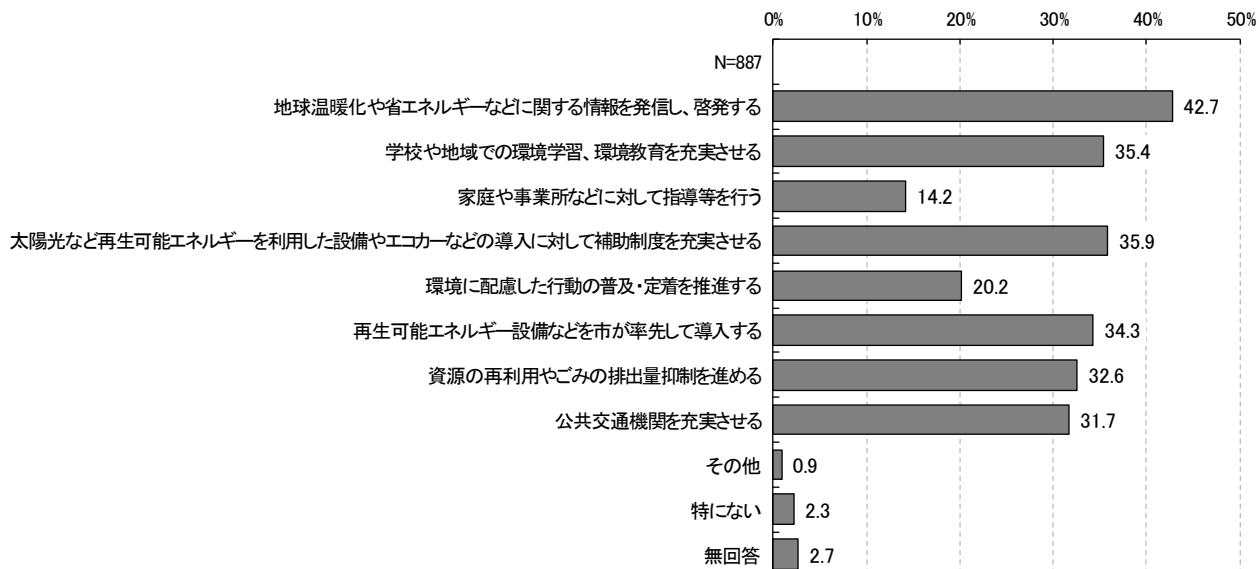
問 12 あなたは、地球温暖化に対して関心がありますか。（○は 1 つ）

○「非常に関心がある」「関心がある」を合わせて、関心があるという回答が 82.3%、「関心がない」「あまり関心がない」を合わせて、関心がないという回答が 14.3%であった。



問 13 地球温暖化対策を進めるため、本市はどのような施策に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

○「地球温暖化や省エネルギーなどに関する情報を発信し、啓発する」が 42.7%と最も高く、次いで「太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる」が 35.9%、「学校や地域での環境学習、環境教育を充実させる」が 35.4%となっている。



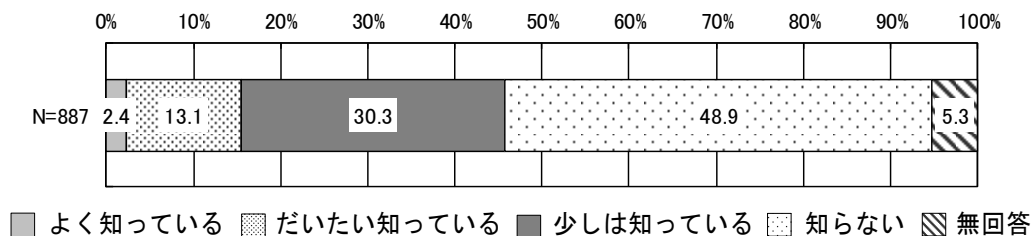
【その他自由意見（9 件 ※少数のため全件掲載）】

- ・自転車により有効に活用されるように。電車、バス、タクシーを自転車対応させる
- ・駐輪場を増やす
- ・公務員は 15km 以内であれば全員自転車通勤とする
- ・電車利用を増やすため、終電は遅く、始発は早くする。できれば 24 時間運転。電車がいないので自家用車、タクシー利用となり CO₂ 増加につながっている。
- ・CO₂ 増加の原因となっている渋滞がなくなるように道路整備を行う
- ・道路を整備し、渋滞を解消させる
- ・CO₂ など現在の豊川市からの排出量等の数値にして
- ・温暖化ビジネスに踊らされないように
- ・巡回バスの廃止。利用者が少ない、その分タクシー券の発行をするべき

問 14 地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を抑制する取組を「緩和」といいます。さらに近年、熱中症の予防や土砂災害・水害対策など、地球温暖化の影響に備える「適応」という考え方が広がっています。あなたは、「適応」という考え方を知っていますか。(○は1つ)

○「よく知っている」が 2.4%、「だいたい知っている」が 13.1%、「少しは知っている」が 30.3%、「知らない」が 48.9%となっている。

○地球温暖化への関心の程度別にみると、関心の程度に関わらず、「知らない」という回答割合が高くなっている。

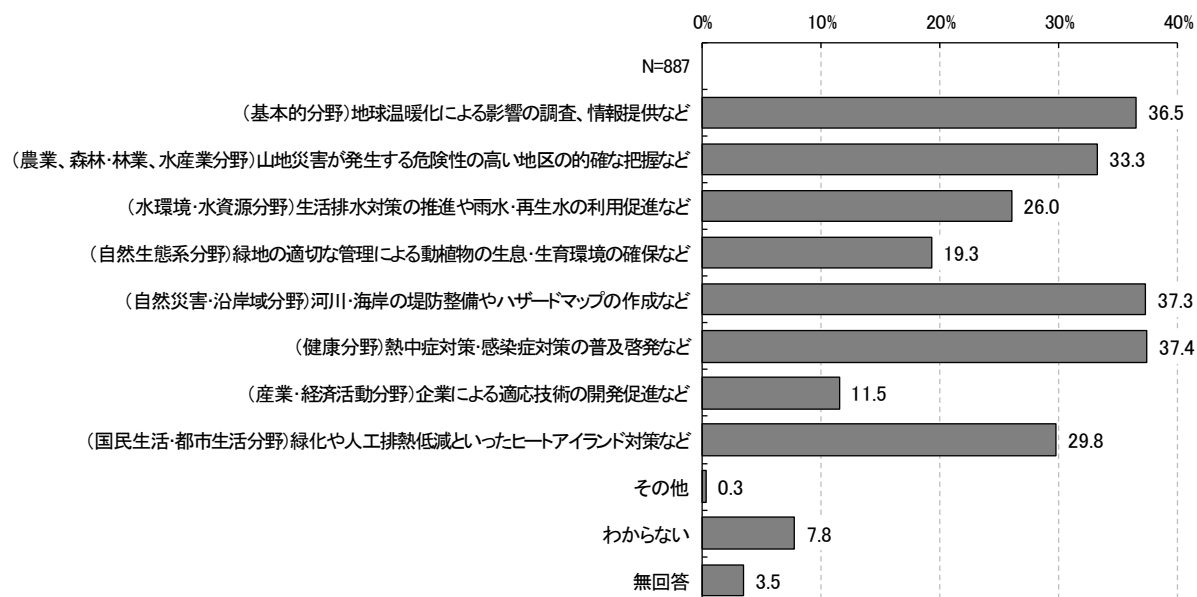


■ 「地球温暖化への関心」によるクロス集計結果

	合計	よく知っている	だいたい知っている	少しは知っている	知らない	無回答
全体	857	21	116	261	431	28
	100.0	2.5	13.5	30.5	50.3	3.3
非常に関心がある	153	15	35	38	59	6
	100.0	9.8	22.9	24.8	38.6	3.9
関心がある	577	6	72	194	286	19
	100.0	1.0	12.5	33.6	49.6	3.3
あまり関心がない	108	0	9	28	70	1
	100.0	0.0	8.3	25.9	64.8	0.9
関心がない	19	0	0	1	16	2
	100.0	0.0	0.0	5.3	84.2	10.5

問 15 あなたは、地球温暖化の影響への「適応」について、本市に対し特にどの分野の取組を求めますか。
(○は 3 つまで)

○「(健康分野) 熱中症対策・感染症対策の普及啓発など」が 37.4%と最も高く、次いで「(自然災害・沿岸域分野) 河川・海岸の堤防整備やハザードマップの作成など」が 37.3%、「(基本的分野) 地球温暖化による影響の調査、情報提供など」が 36.5%となっている。



【その他自由意見（3 件 ※少数のため全件掲載）】

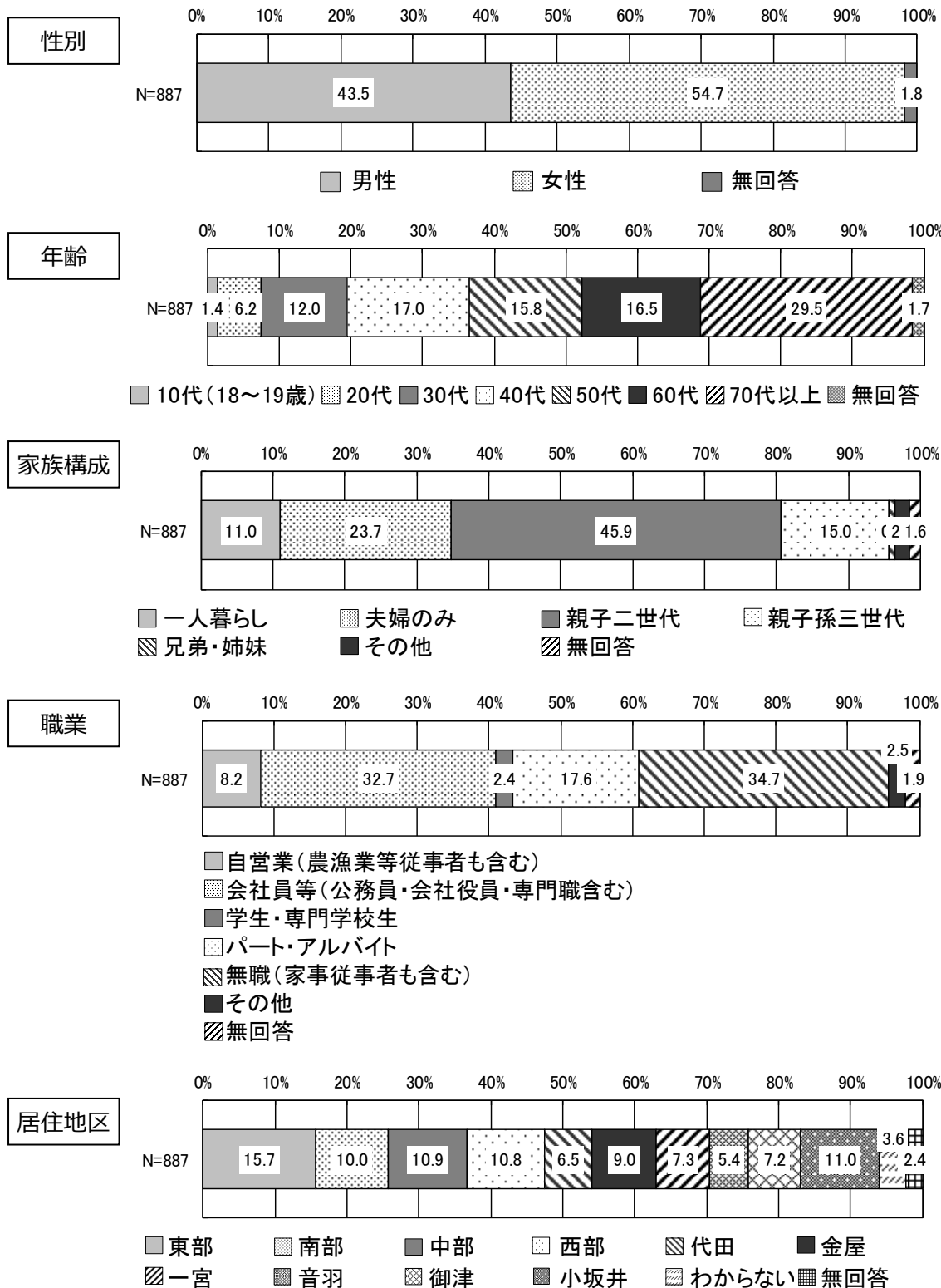
- ・「適応」では解決することはないので、最底でも「緩和」で
- ・家庭ごみを家で燃している現状を徹底すべき。また、生ごみは畑に捨てることも
- ・市民病院など地域医療の満足度向上

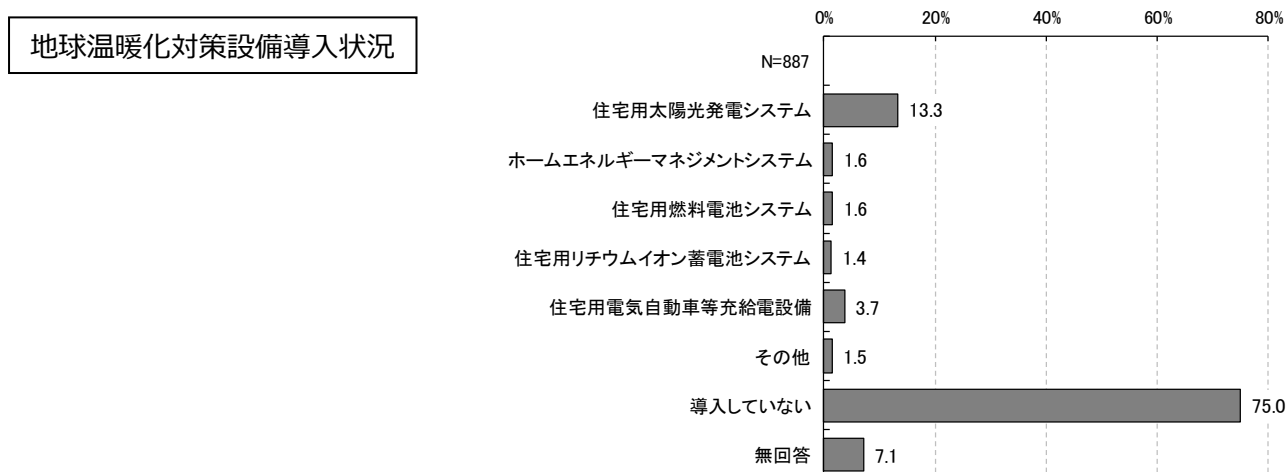
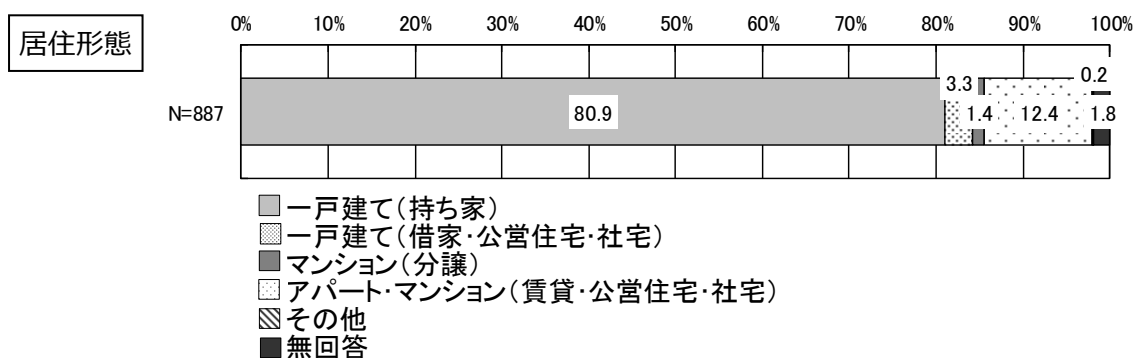
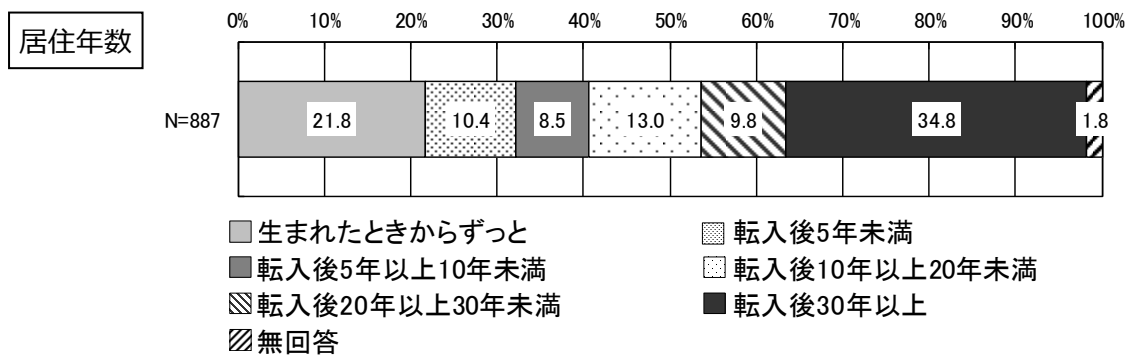
6 あなたのことについて

問 16 あなたのことについておたずねします。各項目について、当てはまるものの番号に○印をつけてください。(○はそれぞれ1つ、ただし、地球温暖化対策設備導入状況はいくつでも)

○回答者の性別、年齢、家族構成といった基本属性は、以下のとおりである。

○地球温暖化対策設備導入状況については、「導入していない」が75.0%と最も高く、「住宅用太陽光発電システム」が13.3%、「住宅用電気自動車等充電設備」が3.7%となっている。





問 17 市内の事業者による環境保全の取組に対して、提案、期待すること等があれば、ご自由にお書きください。

【主な意見】

主な意見	件数
食品廃棄、過剰包装など、ごみの削減	7
情報提供、広報	6
支援、基金の設置など	6
エコ設備、商品開発	4
講座、イベントなどの開催	3
公害等への配慮	3
太陽光パネルの設置への配慮	2
その他	4
合計	35

問 18 本市の環境面からのまちづくりへの提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

【主な意見】

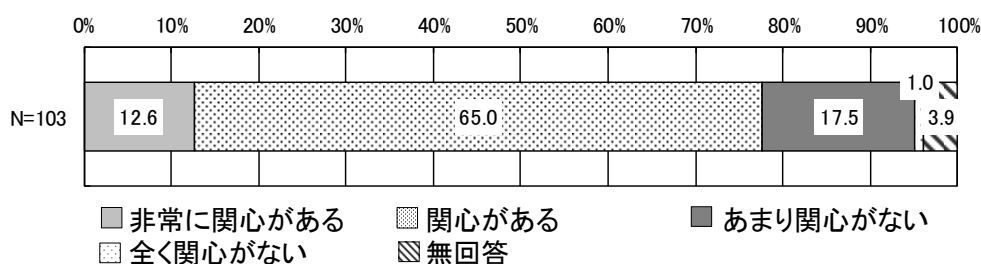
主な意見	件数
広報、啓発、情報提供の充実	20
公共交通機関の充実	20
ごみ出しのマナー、分別方法の検討	16
雑草の手入れ	16
公園整備	15
子どもの環境教育	10
自然の保全	9
佐奈川の桜の保全	8
公害・騒音対策	8
市の魅力向上	8
ごみのポイ捨ての対策、美化活動の促進	7
野焼き対策	7
補助・支援制度の充実	7
道路整備	7
施設整備・景観施策など	7
河川の整備	6
街灯・LED 照明の設置	5
人材育成・ボランティアの活用	5
イベント等の実施	5
街路樹の整備	4
市庁舎のエコ化など、市の率先した取り組み	4
原発反対・クリーンエネルギーの導入	4
鳥獣被害・駆除	4
太陽光発電設置における課題	3
防災対策	3
下水の完備	3
その他	59
合計	265

調査結果【事業所向け】

1 環境問題に対する意識や関心について

問1 貴事業所は、環境問題に関心がありますか。(〇は1つ)

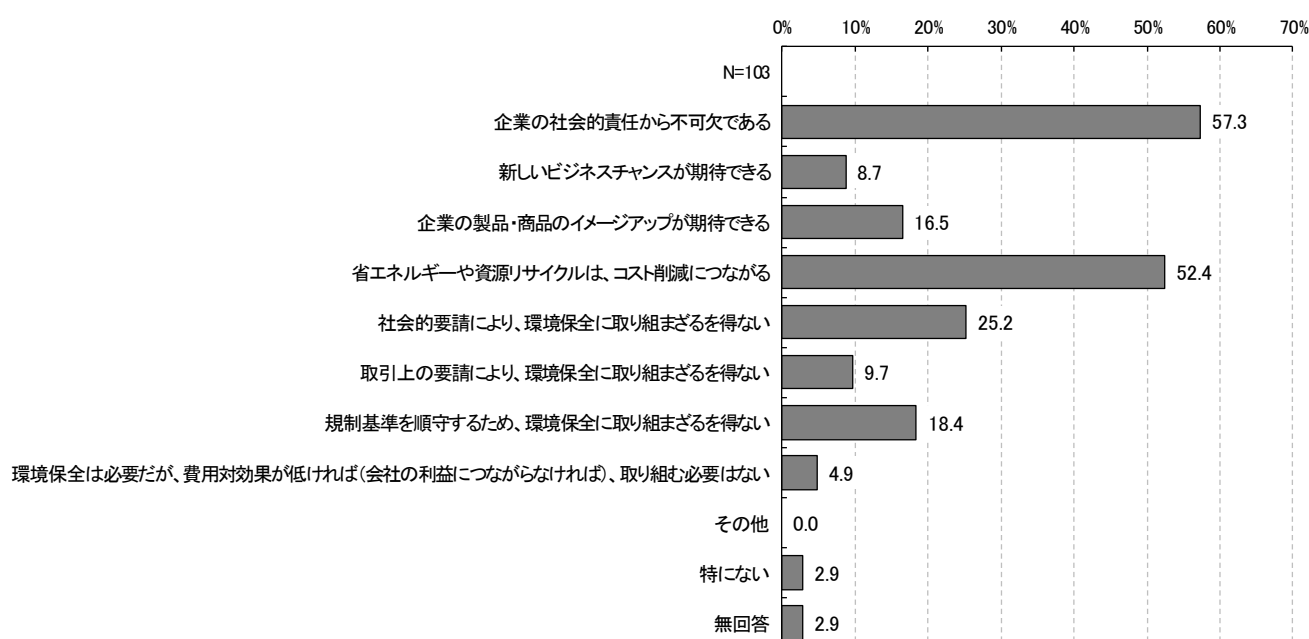
○「非常に関心がある」「関心がある」を合わせて、関心があるという回答が 77.6%、「全く関心がない」「あまり関心がない」を合わせて、関心がないという回答が 18.5%であった。



問2 貴事業所は、環境保全の取組についてどのようにお考えですか。(〇はいくつでも)

○「企業の社会的責任から不可欠である」が 57.3%と最も高く、次いで「省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる」が 52.4%、「社会的要請により、環境保全に取り組まざるを得ない」が 25.2%となっている。

○環境問題への関心の程度別にみると、関心が事業所では「企業の社会的責任から不可欠である」という考えを、あまり関心がない事業所においても「省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる」という考えを、環境保全の取組に対して持っている。



【その他自由意見 (0 件)】

・ —

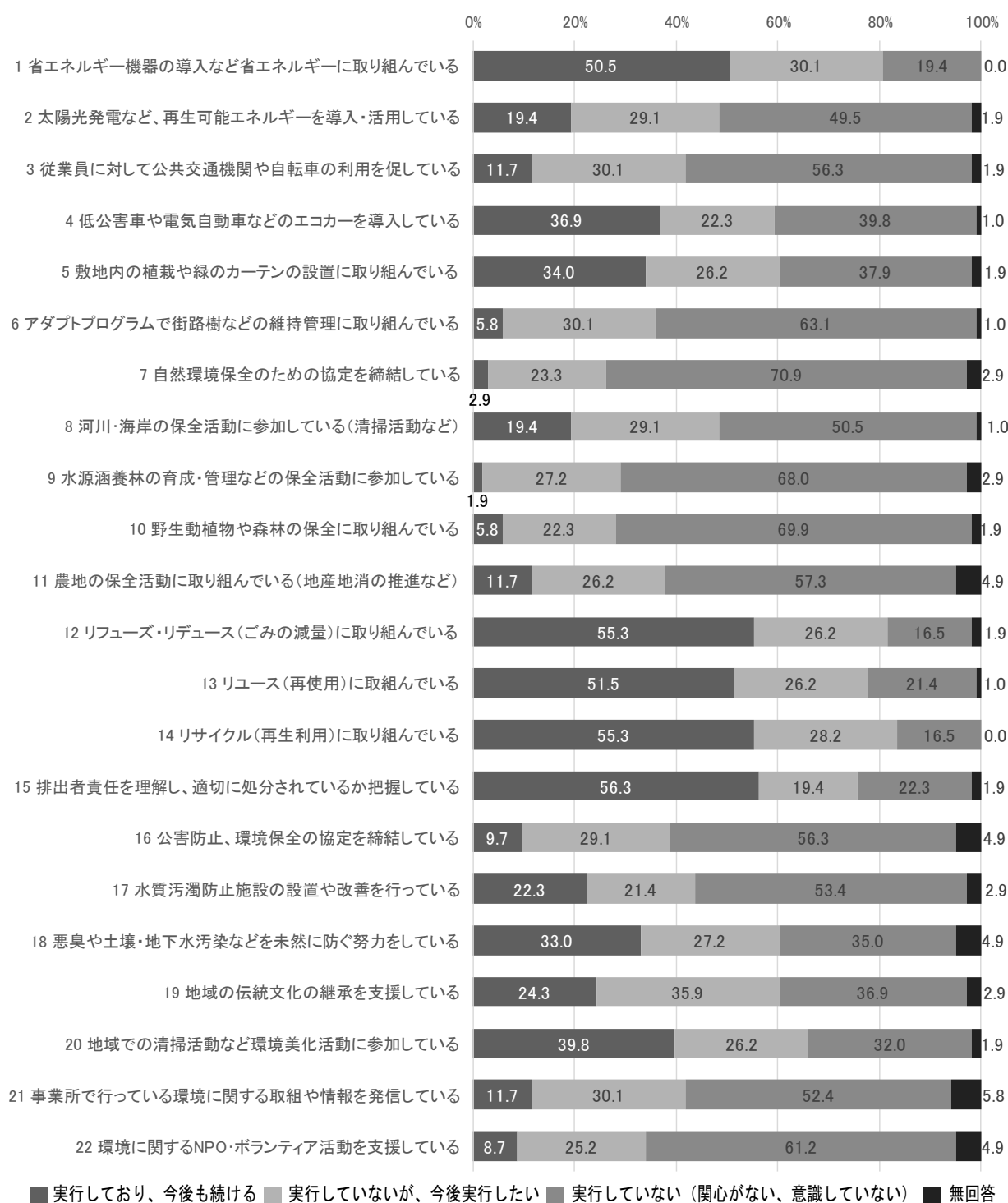
■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

	合計	企業の社会的責任から不可欠である	新しいビジネスチャンスが期待できる	企業の製品・商品のイメージアップが期待できる	省エネルギーや資源リサイクルは、コスト削減につながる	社会的要請により、環境保全に取り組まざるを得ない	取引上の要請により、環境保全に取り組まざるを得ない	規制基準を順守するため、環境保全に取り組まざるを得ない	環境保全は必要だが、費用対効果が低ければ（会社の利益につながらなければ）、取り組む必要はない	その他	特になし	無回答
全体	99 100.0	58 58.6	9 9.1	17 17.2	52 52.5	26 26.3	10 10.1	19 19.2	4 4.0	0 0.0	3 3.0	1 1.0
非常に関心がある	13 100.0	12 92.3	5 38.5	5 38.5	5 38.5	4 30.8	2 15.4	4 30.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
関心がある	67 100.0	44 65.7	4 6.0	12 17.9	38 56.7	19 28.4	6 9.0	11 16.4	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5
あまり関心がない	18 100.0	2 11.1	0 0.0	0 0.0	9 50.0	3 16.7	2 11.1	4 22.2	3 16.7	0 0.0	2 11.1	0 0.0
全く関心がない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

2 環境保全の取組について

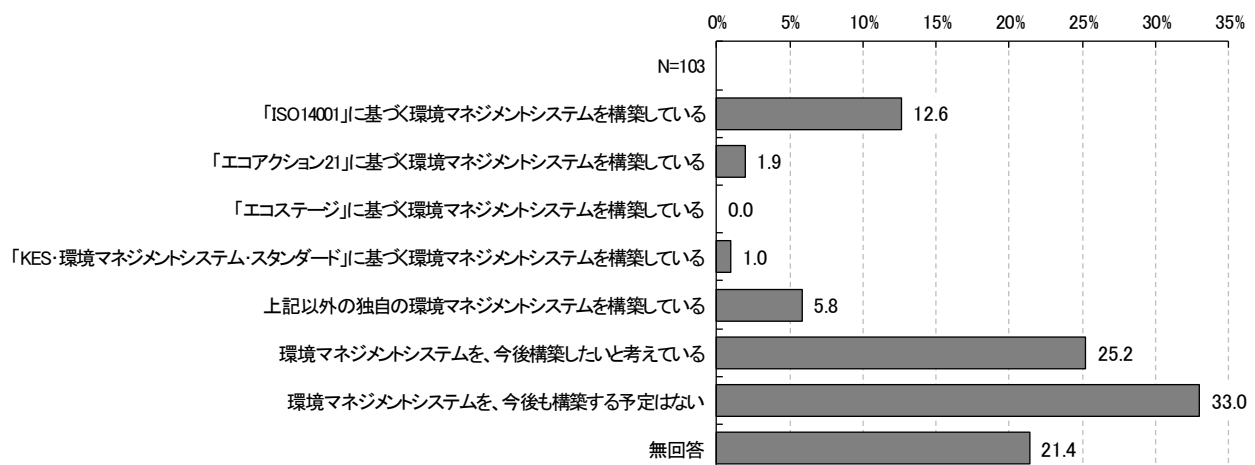
問3 貴事業所は、次のような環境保全の取組を実行していますか。各項目について、該当する番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

- 「実行しており、今後も続ける」の回答が高い項目としては、「排出者責任を理解し、適切に処分されているか把握している」が 56.3%と最も高く、次いで「リフューズ・リデュース（ごみの減量）に取り組んでいる」、「リサイクル（再生利用）に取り組んでいる」が 55.3%となっている。
- 「実行していないが、今後実行したい」の回答が高い項目としては、「地域の伝統文化の継承を支援している」が 35.9%と最も高く、次いで「省エネルギー機器の導入など省エネルギーに取り組んでいる」、「従業員に対して公共交通機関や自転車の利用を促している」、「アダプトプログラムで街路樹などの維持管理に取り組んでいる」、「事業所で行っている環境に関する取組や情報を発信している」が 30.1%となっている。
- 「実行していない（関心がない、意識していない）」の回答が高い項目としては、「自然環境保全のための協定を締結している」が 70.9%と最も高く、次いで「野生動植物や森林の保全に取り組んでいる」が 69.9%、「水源涵養林の育成・管理などの保全活動に参加している」が 68.0%となっている。



問4 環境マネジメントシステムについて、貴事業所の取組状況に当てはまるものはどれですか。(○はいくつでも)

- 「環境マネジメントシステムを、今後も構築する予定はない」が33.0%と最も高く、次いで「環境マネジメントシステムを、今後構築したいと考えている」が25.2%、「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムを構築している」が12.6%となっている。
- 環境問題への関心の程度別にみると、関心がある事業所では、環境マネジメントシステムを既に構築していたり、今後構築したいという回答割合が高くなっている。
- 事業所規模別にみると、従業員数9人以下の規模の小さい事業所では、「環境マネジメントシステムを、今後も構築する予定はない」という回答割合が比較的高くなっている。



■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

	合計	「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「エコアクション21」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「エコステージ」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	上記以外の独自の環境マネジメントシステムを構築している	環境マネジメントシステムを、今後構築したいと考えている	環境マネジメントシステムを、今後も構築する予定はない	無回答
全体	99 100.0	13 13.1	2 2.0	0 0.0	1 1.0	6 6.1	25 25.3	32 32.3	21 21.2
非常に関心がある	13 100.0	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0	2 15.4	7 53.8	0 0.0	1 7.7
関心がある	67 100.0	11 16.4	1 1.5	0 0.0	1 1.5	3 4.5	18 26.9	23 34.3	11 16.4
あまり関心がない	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	9 50.0	8 44.4
全く関心がない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

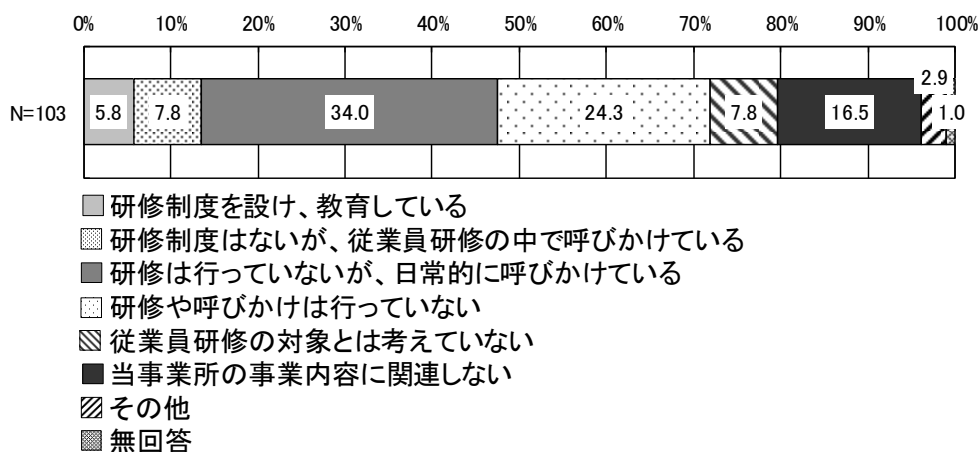
■「事業所規模（従業員数）」によるクロス集計結果

	合計	「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「エコアクション21」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「エコステージ」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」に基づく環境マネジメントシステムを構築している	上記以外の独自の環境マネジメントシステムを構築している	環境マネジメントシステムを、今後構築したいと考えている	環境マネジメントシステムを、今後も構築する予定はない	無回答
全体	102	13	2	0	1	6	25	34	22
	100.0	12.7	2.0	0.0	1.0	5.9	24.5	33.3	21.6
1～9人	65	2	2	0	1	2	15	28	15
	100.0	3.1	3.1	0.0	1.5	3.1	23.1	43.1	23.1
10～19人	5	0	0	0	0	1	2	1	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0
20～29人	9	0	0	0	0	2	3	2	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	22.2	22.2
30～49人	5	2	0	0	0	0	1	1	1
	100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0
50～99人	7	4	0	0	0	1	1	1	0
	100.0	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0
100～199人	6	2	0	0	0	0	3	1	1
	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	16.7
200～299人	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300人以上	4	2	0	0	0	0	0	0	2
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

問5 環境保全に関する従業員教育について、貴事業所の取組状況や考え方に当てはまるものはどれですか。(〇は1つ)

○「研修は行っていないが、日常的に呼びかけている」が34.0%、「研修や呼びかけは行っていない」が24.3%、「当事業所の事業内容に関連しない」が16.5%となっている。

○環境問題への関心の程度別にみると、関心の高い事業所では、「研修は行っていないが、日常的に呼びかけている」という回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見（3件 ※少数のため全件掲載）】

- ・従業員がいない
- ・従業員なし
- ・薬事法医療器製造の認可を得ているので、それに基づく教育をしている

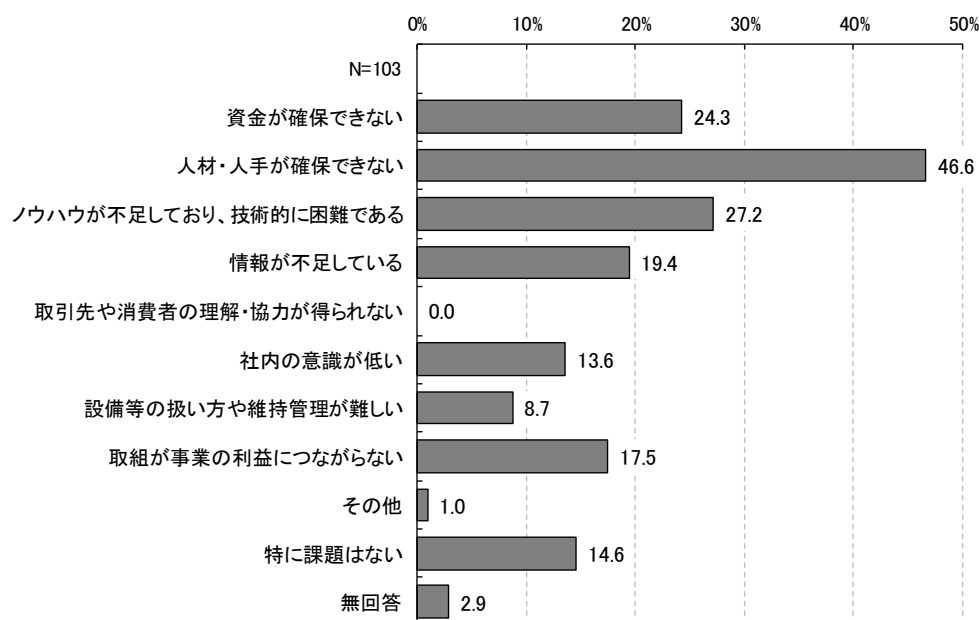
■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

	合計	研修制度を設け、教育している	研修制度はないが、従業員研修の中で呼びかけている	研修は行っていないが、日常的に呼びかけている	研修や呼びかけは行っていない	従業員研修の対象とは考えていない	当事業所の事業内容に関連しない	その他	無回答
全体	99	6	8	35	23	7	16	3	1
	100.0	6.1	8.1	35.4	23.2	7.1	16.2	3.0	1.0
非常に関心がある	13	1	1	10	0	0	1	0	0
	100.0	7.7	7.7	76.9	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
関心がある	67	4	6	24	19	5	6	2	1
	100.0	6.0	9.0	35.8	28.4	7.5	9.0	3.0	1.5
あまり関心がない	18	1	1	1	4	2	8	1	0
	100.0	5.6	5.6	5.6	22.2	11.1	44.4	5.6	0.0
全く関心がない	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問6 貴事業所が環境保全の取組を実行する上で課題と感じていることはありますか。(〇はいくつでも)

○「人材・人手が確保できない」が46.6%と最も高く、次いで「ノウハウが不足しており、技術的に困難である」が27.2%、「資金が確保できない」が24.3%となっている。

○事業所規模別にみると、従業員数9人以下の規模の小さい事業所では、「人材・人手が確保できない」に加えて、「資金が確保できない」という回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見（1件 ※少数のため全件掲載）】

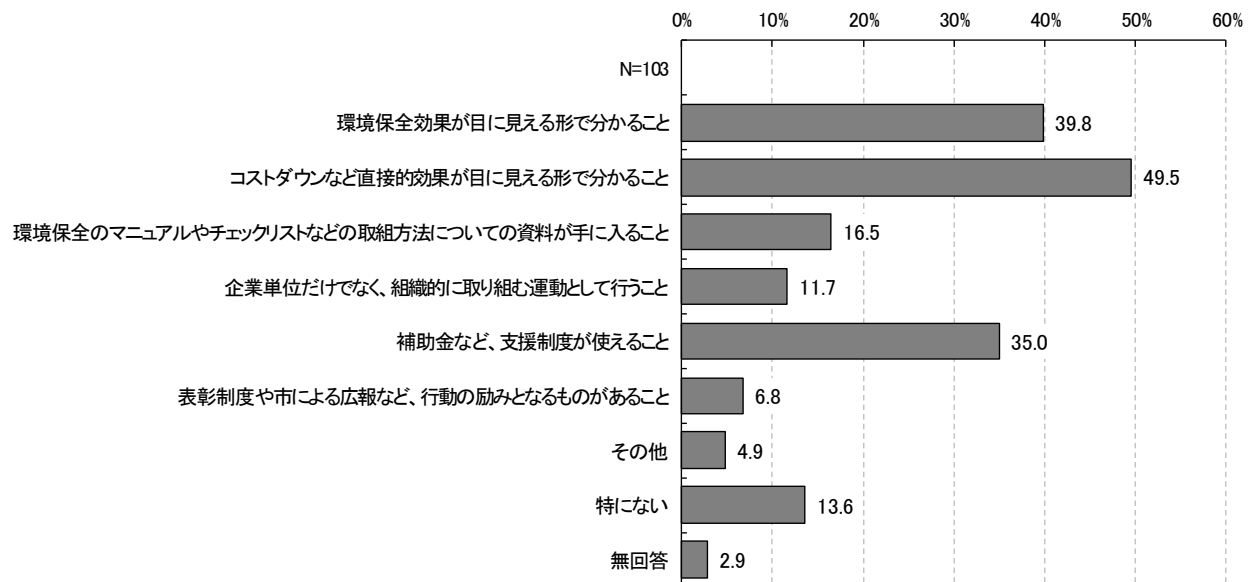
- ・人間力向上に取り組んでいる

■「事業所規模（従業員数）」によるクロス集計結果

	合計	資金が確保できない	人材・人手が確保できない	ノウハウが不足しており、技術的に困難である	情報が不足している	取引先や消費者の理解・協力が得られない	社内の意識が低い	設備等の扱い方や維持管理が難しい	取組が事業の利益につながらない	その他	特に課題はない	無回答
全体	102	24	47	27	20	0	14	9	18	1	15	3
	100.0	23.5	46.1	26.5	19.6	0.0	13.7	8.8	17.6	1.0	14.7	2.9
1～9人	65	21	28	14	16	0	9	4	11	0	13	3
	100.0	32.3	43.1	21.5	24.6	0.0	13.8	6.2	16.9	0.0	20.0	4.6
10～19人	5	2	4	3	0	0	1	1	0	0	0	0
	100.0	40.0	80.0	60.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29人	9	1	4	4	0	0	1	0	2	1	0	0
	100.0	11.1	44.4	44.4	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0
30～49人	5	0	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	100.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
50～99人	7	0	4	2	1	0	1	2	3	0	0	0
	100.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0
100～199人	6	0	2	2	2	0	1	0	1	0	0	0
	100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
200～299人	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300人以上	4	0	1	2	1	0	0	1	1	0	1	0
	100.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0

問7 貴事業所が環境保全の取組をより積極的に実行していくために、どのようなことが必要ですか。(○は3つまで)

○「コストダウンなど直接的効果が目に見える形で分かること」が49.5%と最も高く、次いで「環境保全効果が目に見える形で分かること」が39.8%、「補助金など、支援制度が使えること」が35.0%となっている。



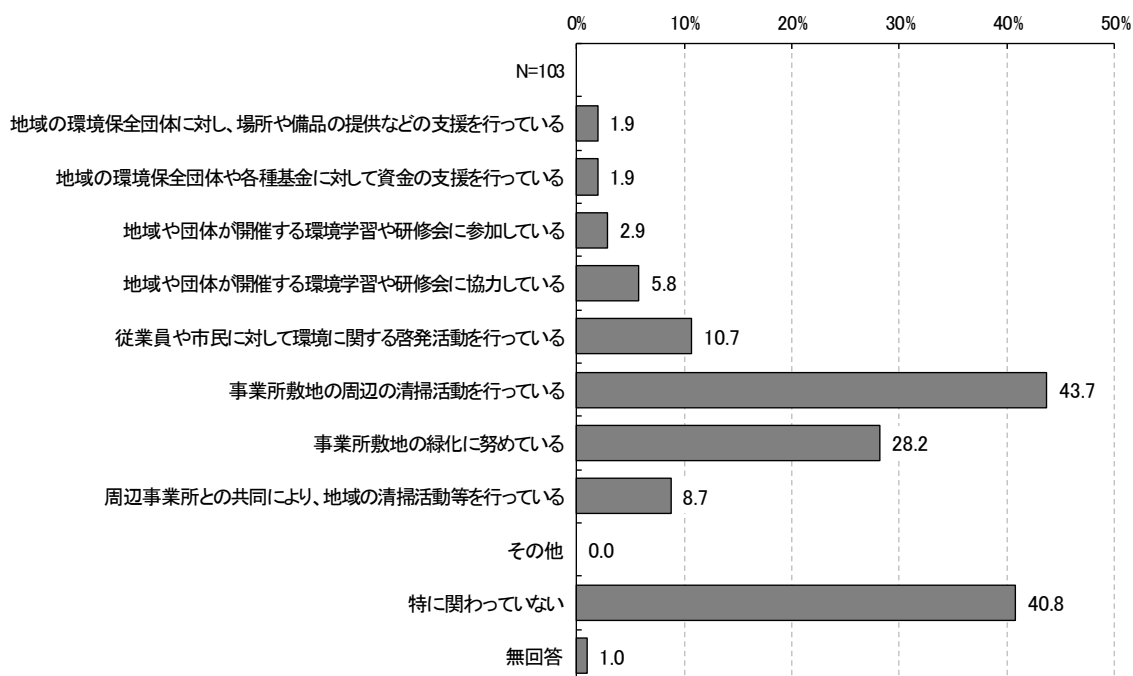
【その他自由意見（4件 ※少数のため全件掲載）】

- ・活動に際しての事務管理レス。作業負過が高いため。特に ISO14001
- ・地域で行う清掃活動の情報が欲しい
- ・従業員 応募者が現れること
- ・人間力向上に取り組んでいる

問8 貴事業所は、地域の環境保全の取組にどのように関わっていますか。(〇はいくつでも)

○「事業所敷地の周辺の清掃活動を行っている」が 43.7%と最も高く、次いで「特に関わっていない」が 40.8%、「事業所敷地の緑化に努めている」が 28.2%となっている。

○事業所規模別にみると、比較的規模の小さい事業所では、「特に関わっていない」という回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見 (0 件)】

・ —

■「事業所規模 (従業員数)」によるクロス集計結果

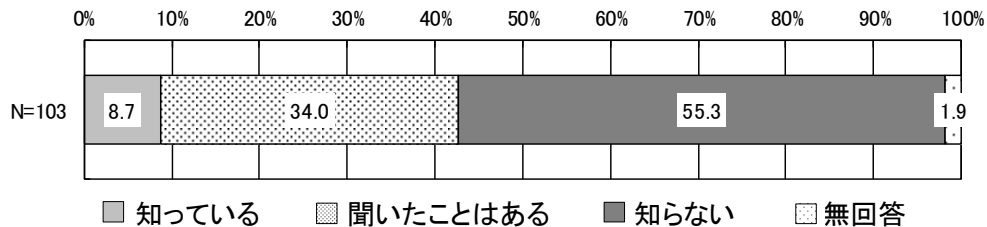
	合計	地域の環境保全団体に対し、場所や備品の提供などの支援を行っている	地域の環境保全団体や各種基金に対して資金の支援を行っている	地域や団体が開催する環境学習や研修会に参加している	地域や団体が開催する環境学習や研修会に協力している	従業員や市民に対して環境に関する啓発活動を行っている	事業所敷地の周辺の清掃活動を行っている	事業所敷地の緑化に努めている	周辺事業所との共同により、地域の清掃活動等を行っている	その他	特に関わっていない	無回答
全体	102 100.0	2 2.0	2 2.0	3 2.9	6 5.9	11 10.8	45 44.1	29 28.4	9 8.8	0 0.0	41 40.2	1 1.0
1～9人	65 100.0	1 1.5	1 1.5	0 0.0	1 1.5	5 7.7	23 35.4	12 18.5	5 7.7	0 0.0	34 52.3	0 0.0
10～19人	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29人	9 100.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2	2 22.2	1 11.1	3 33.3	2 22.2	0 0.0	0 0.0	4 44.4	0 0.0
30～49人	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0
50～99人	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	6 85.7	3 42.9	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
100～199人	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
200～299人	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
300人以上	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

3 本市の環境基本計画に関する取組について

問9 貴事業所は、「豊川市環境基本計画」を知っていますか。(○は1つ)

○「知っている」が8.7%、「聞いたことはある」が34.0%、「知らない」が55.3%となっている。

○環境問題への関心の程度別にみると、非常に興味があるという事業所では「知っている」が30.8%となっているものの、それ以外は「知らない」という回答割合が高くなっている。

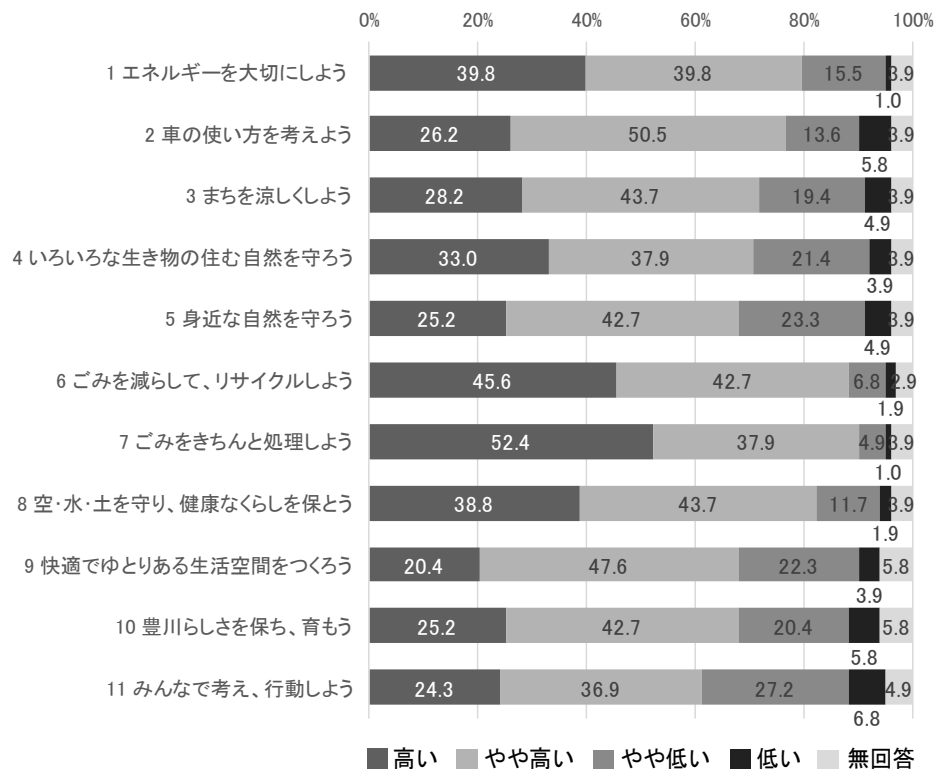


■「環境問題への関心」によるクロス集計結果

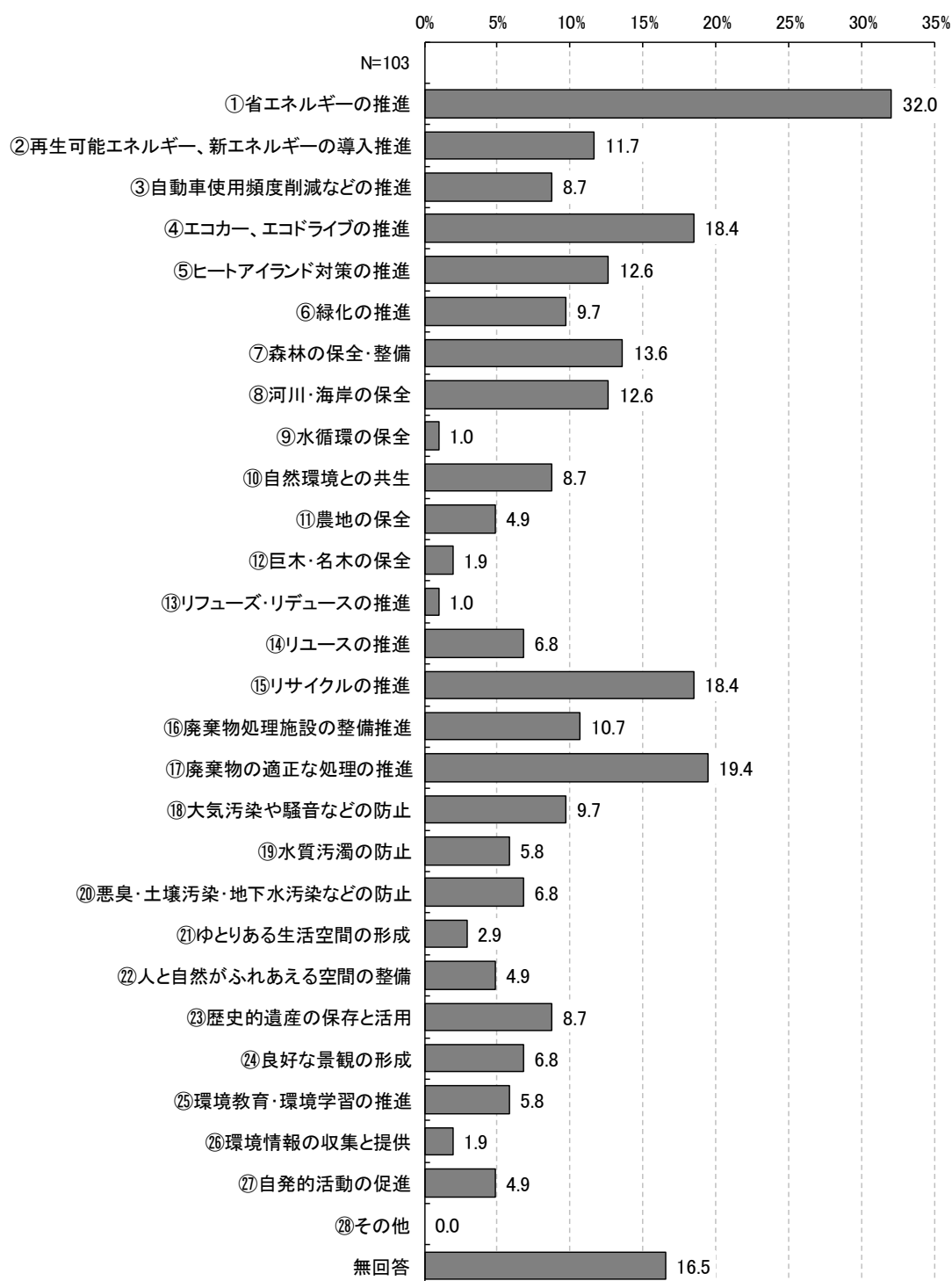
	合計	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体	99 100.0	9 9.1	34 34.3	54 54.5	2 2.0
非常に興味がある	13 100.0	4 30.8	6 46.2	3 23.1	0 0.0
関心がある	67 100.0	4 6.0	23 34.3	39 58.2	1 1.5
あまり関心がない	18 100.0	1 5.6	5 27.8	11 61.1	1 5.6
全く関心がない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

問 10 本市の環境基本計画に関する環境目標について、今後の重要度をどのように考えますか。表右側の重要度について、該当する番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ1つ）また、より良い環境を将来の世代に引き継ぐため、今後、特に重点的に取り組むべき取組を3つ選び、番号を記入してください。

○「高い」「やや高い」を合わせて、重要度が高い項目としては、「ごみをきちんと処理しよう」が90.3%と最も高く、次いで「ごみを減らして、リサイクルしよう」が88.3%、「空・水・土を守り、健康なくらしを保とう」が82.5%となっている。



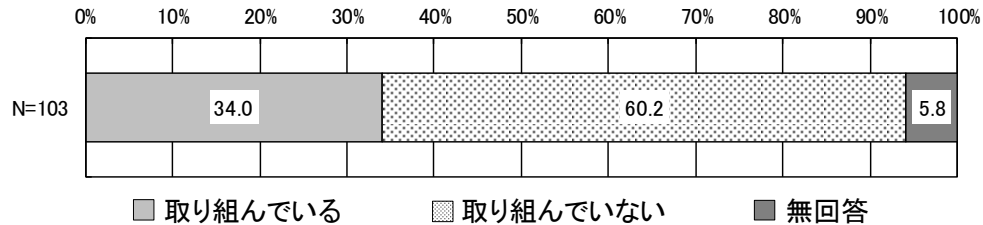
○今後、特に重点的に取り組むべき取組としては、「省エネルギーの推進」が 32.0%と最も高く、「廃棄物の適正な処理の推進」が 19.4%、「エコカー、エコドライブの推進」、「リサイクルの推進」が 18.4%となっている。



4 地球温暖化対策について

問 11 貴事業所では、地球温暖化対策に取り組んでいますか。(○は1つ)

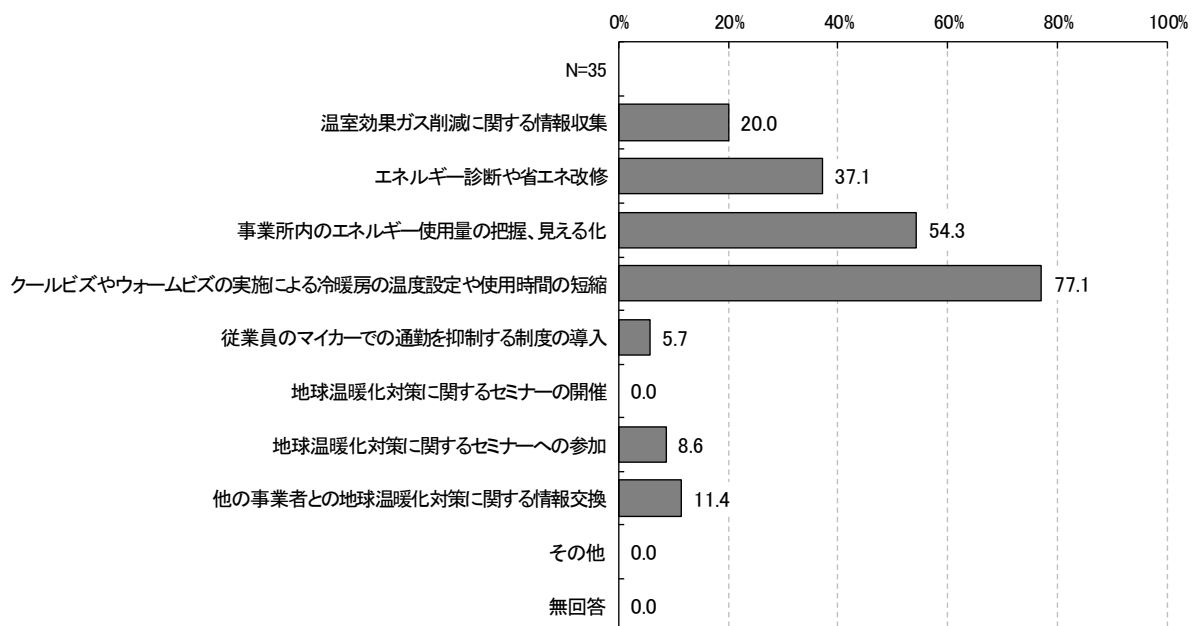
○「取り組んでいる」と回答した事業所が 34.0%、「取り組んでない」と回答した事業所が 60.2%となっている。



問 12 問 11 で「取り組んでいる」と答えた方にお聞きます。

貴事業所ではどういった地球温暖化対策に取り組んでいますか。(○はいくつでも)

○「クールビズやウォームビズの実施による冷暖房の温度設定や使用時間の短縮」が 77.1%と最も高く、次いで「事業所内のエネルギー使用量の把握、見える化」が 54.3%、「エネルギー診断や省エネ改修」が 37.1%となっている。



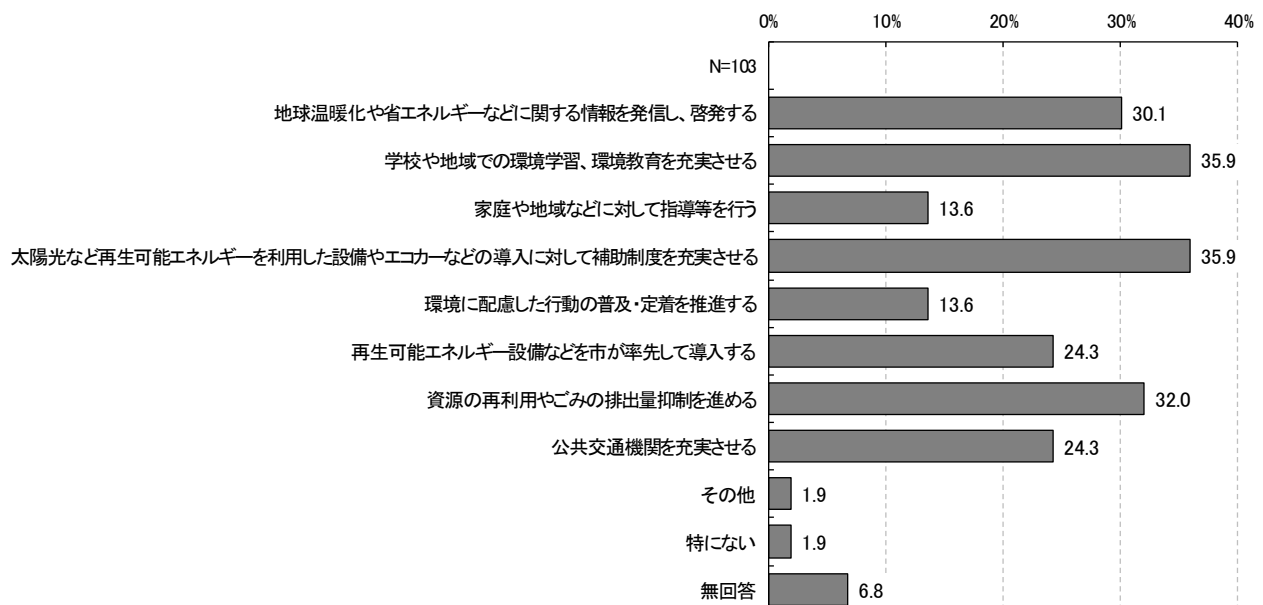
【その他自由意見 (0 件)】

・ —

問 13 地球温暖化対策を進めるため、本市はどのような施策に取り組むべきだと考えますか。(〇は3つまで)

○「学校や地域での環境学習、環境教育を充実させる」、「太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる」が 35.9%と最も高く、次いで「資源の再利用やごみの排出量抑制を進める」が 32.0%、「地球温暖化や省エネルギー等に関する情報を発信し、啓発する」が 30.1%となっている。

○所有形態別にみると、「自社保有」の事業所では、「太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる」という回答割合が比較的高くなっている。



【その他自由意見（2件）】

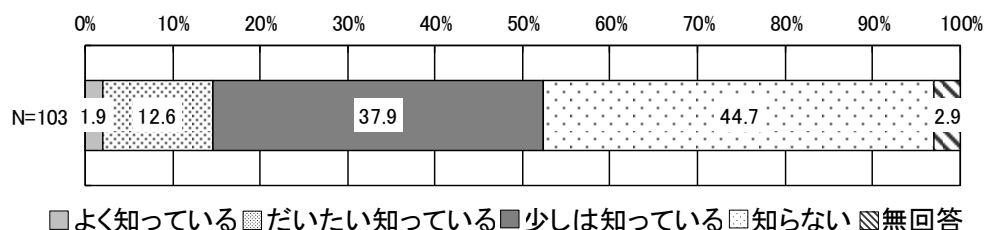
- ・市内循環エコバスなどを走らせる。身障者の足となる
- ・法規制、課税によって市政の方向付けをする

■「所有形態」によるクロス集計結果

	合計	地球温暖化や省エネルギー等に関する情報を発信し、啓発する	学校や地域での環境学習、環境教育を充実させる	家庭や地域などに対して指導等を行う	太陽光など再生可能エネルギーを利用した設備やエコカーなどの導入に対して補助制度を充実させる	環境に配慮した行動の普及・定着を推進する	再生可能エネルギー設備などを市が率先して導入する	資源の再利用やごみの排出量抑制を進める	公共交通機関を充実させる	その他	特にない	無回答
全体	102	30	36	14	37	14	25	32	25	2	2	7
	100.0	29.4	35.3	13.7	36.3	13.7	24.5	31.4	24.5	2.0	2.0	6.9
賃貸（建物全体）	19	6	7	1	4	2	5	4	7	1	1	0
	100.0	31.6	36.8	5.3	21.1	10.5	26.3	21.1	36.8	5.3	5.3	0.0
賃貸（一部）	22	6	8	5	6	3	5	9	5	0	0	1
	100.0	27.3	36.4	22.7	27.3	13.6	22.7	40.9	22.7	0.0	0.0	4.5
自社保有	59	17	19	8	26	8	14	19	13	1	1	6
	100.0	28.8	32.2	13.6	44.1	13.6	23.7	32.2	22.0	1.7	1.7	10.2
その他	2	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0
	100.0	50.0	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

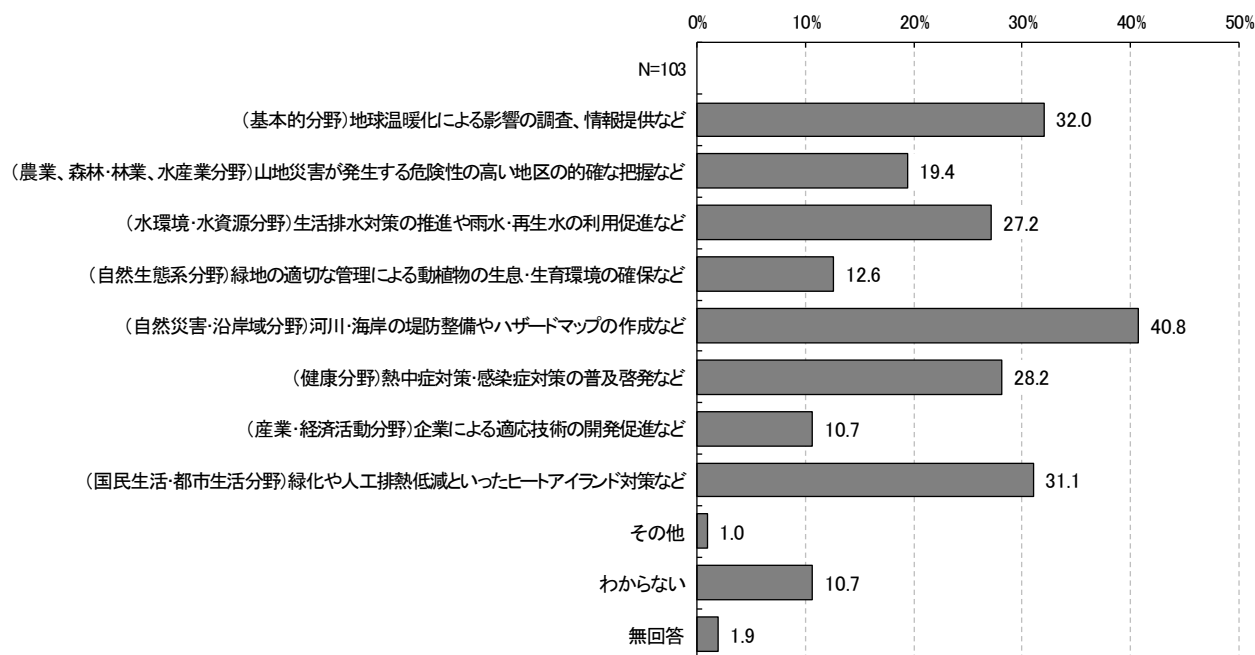
問 14 地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を抑制する取組を「緩和」といいます。さらに近年、熱中症の予防や土砂災害・水害対策など、地球温暖化の影響に備える「適応」という考え方が広がっています。貴事業所は、「適応」という考え方を知っていますか。(○は1つ)

○「よく知っている」が 1.9%、「だいたい知っている」が 12.6%、「少しは知っている」が 37.9%、「知らない」が 44.7%となっている。



問 15 貴事業所は、地球温暖化の影響への「適応」について、本市に対し特にどの分野の取組を求めますか。(○は3つまで)

○「(自然災害・沿岸域分野) 河川・海岸の堤防整備やハザードマップの作成など」が 40.8%と最も高く、次いで「(基本的分野) 地球温暖化による影響の調査、情報提供など」が 32.0%、「(国民生活・都市生活分野) 緑化や人工排熱低減といったヒートアイランド対策など」が 31.1%となっている。



【その他自由意見 (1 件 ※少数のため全件掲載)】

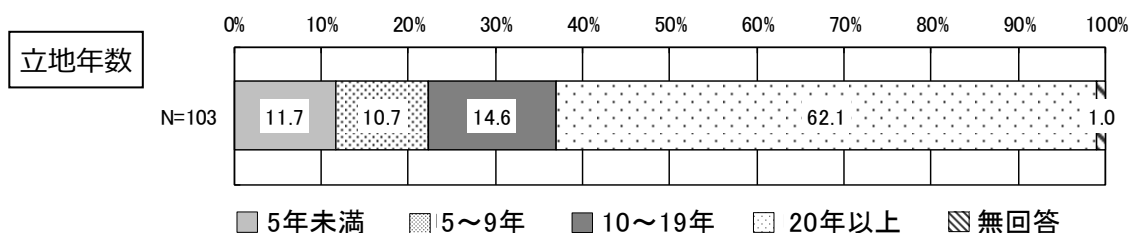
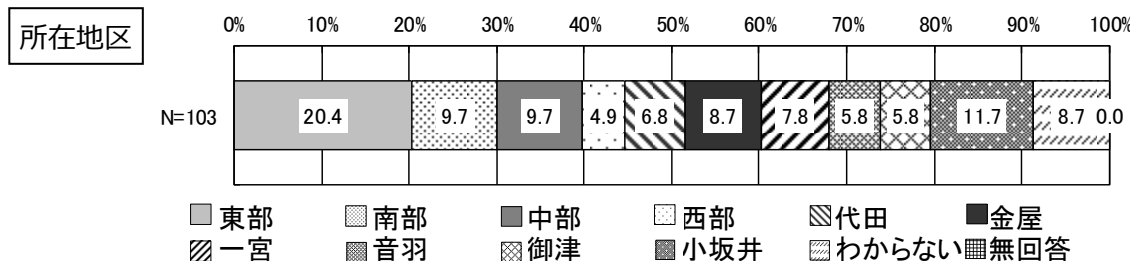
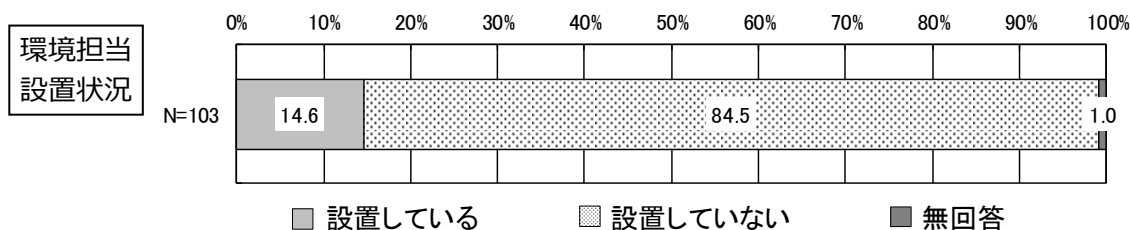
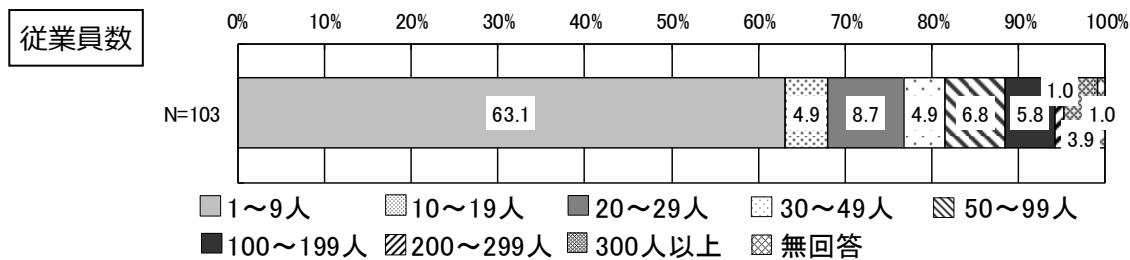
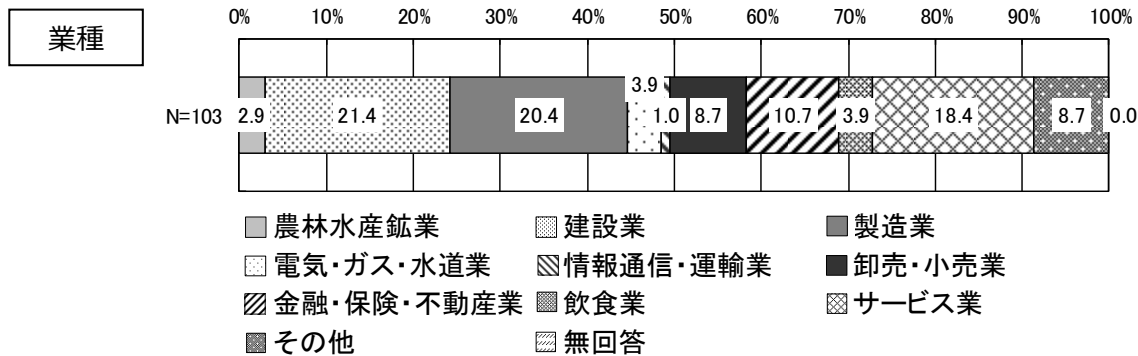
・蚊の発生を抑える方策

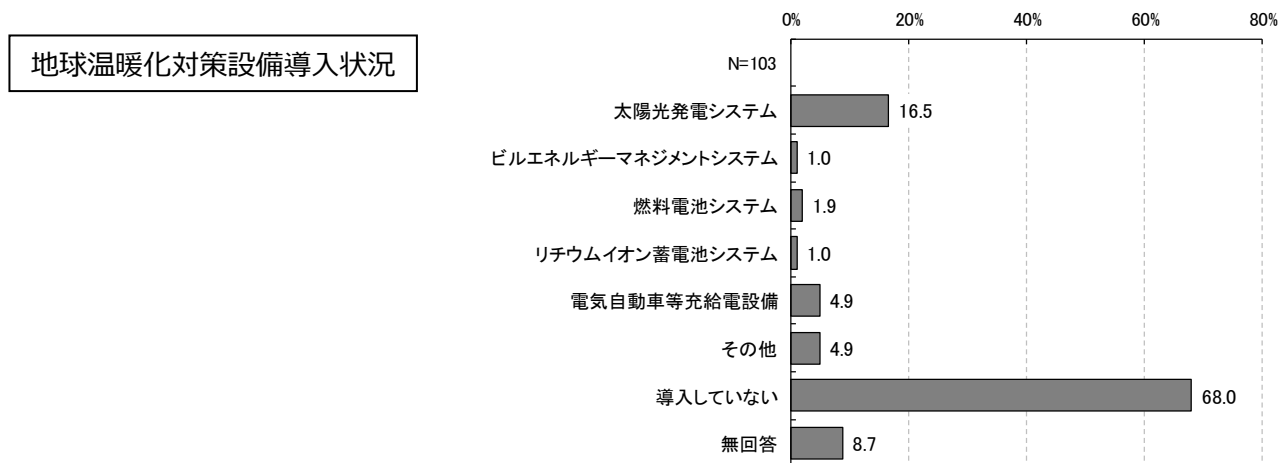
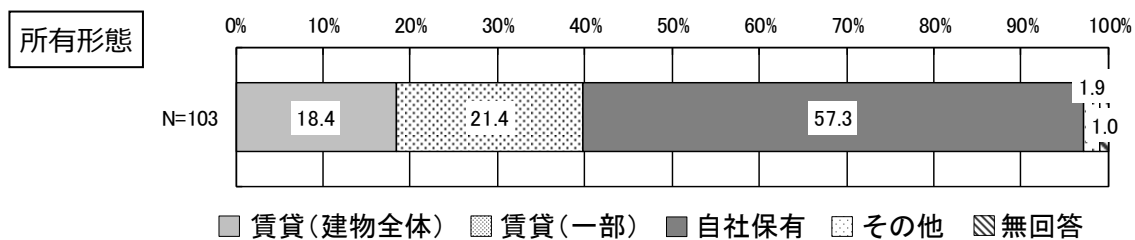
5 貴事業所のことについて

問 16 貴事業所のことについておたずねします。各項目について、当てはまるものの番号に○印をつけてください。（○はそれぞれ1つ、ただし、地球温暖化対策設備導入状況はいくつでも）

○回答事業所の業種、従業員数、環境担当部署、担当者の設置状況といった基本属性は、以下のとおりである。

○地球温暖化対策設備導入状況については、「導入していない」が68.0%と最も高く、「太陽光発電システム」が16.5%、「電気自動車等充電設備」、「その他」が4.9%となっている。





問 17 市民による環境保全の取組について、提案、期待すること等があれば、ご自由にお書きください。

【主な意見（3 件 ※少数のため全件掲載）】

- ・ちょっとおもしろおかしく取り組めるチェックシートの配布など（堅苦しいものでないのが良いと思います）
- ・環境基本計画のコンセプト（将来像）について、シンプルでインパクトがあり、ユニークであることを期待します。豊田市さんの「ミライのフツー」とか。市民から公募しては如何か。例）Toyokawa Engagement（豊川エンゲージメント）
- ・各個人のレベルに合わせて、身近なものから取組ができるような指導をして欲しい

問 18 本市の環境面からのまちづくりへの提案、期待、要望等があれば、ご自由にお書きください。

【主な意見（7 件 ※少数のため全件掲載）】

- ・中小企業でもできるアクションの具体的方法や、ちょっとしたメリット（企業側）をつけてなるべく多くの企業に小さな関心、実行できる案が欲しいと思います
- ・豊川市の自然を守って欲しい。自然の破壊は反対です。事故等を恐れています
- ・佐奈川だけでなく、豊川を主体とした保全教育
- ・お金を使わず実現出来る環境活動を希望します
- ・環境情報公開において、環境負荷実績のベンチマーク（他自治体との比較。データ、オーダー（順位付け））を実施して、パフォーマンスをより見える化して欲しい
- ・少子高齢化、人口減少のことを考えれば、環境問題の全てに取り組むことは不可能と思われる。近年の災害（地震、水害）を考えればそちらの対策が急務と考える。ハザードマップで事前に被災が予測されている方の移転（安全な場所にある空き家へ）など、非常に難しいとは思いますが、減災の対策を行なった方が良い
- ・自然の森林、大木等の保全。例）東京都では、ビル街の道路のまん中に大木がある。または、再構築する